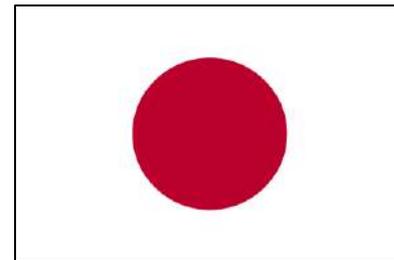


アジェンダ



1. 自己紹介：風間 賢雄
齊藤 芙美
2. ベトナムの経済概況と進出企業日系企業動向（風間）
3. バリアブンタウ省の概要と
フーミー3特別工業団地の紹介（齊藤）
4. 質疑応答

自己紹介:風間 賢雄

生年月日1948年5月23日 新潟生まれ (76歳)

1967年3月	新潟県立新潟商業高校卒業
1968年4月	長崎大学経済学部貿易学科入学
1972年3月	同上 卒業
1972年4月	日商岩井株式会社入社
1982年10月	日商岩井カイロ事務所駐在
1987年5月	日商岩井産業機械部
1988年9月	日商岩井ジャカルタ事務所駐在
1993年5月	日商岩井産機プロジェクト部
2000年4月	日商岩井バンコク事務所駐在
2002年2月	日商岩井退社
2002年3月	(株) 銭高組入社 ハノイ事務所長
2007年6月	同上 退社
2007年7月	双日入社 ロテコ工業団地社長 (ベトナム)
2015年3月	双日 (ロテコ工業団地) 退社
2015年4月	Thanh Binh Phu My (株) 入社 取締役副社長

現在に至る。

自己紹介: 齊藤 芙美

生年月日	1991年 11月19日 徳島生まれ (33歳)
2010年 3月	徳島県立徳島北高校 国際英語科 卒業
2010年 4月	徳島大学 総合科学部人間文化学科国際文化コース 入学
2012年 8月	アメリカ交換留学: Florida Atlantic University (10か月)
2015年 3月	徳島大学 卒業
2015年 4月	株式会社フジタ 入社 名古屋支店配属
2018年 5月	株式会社フジタ 国際事業部配属
2019年 8月	株式会社フジタ 退職
2019年 9月	イギリス大学院留学: University of Bradford
2020年12月	同上 卒業
2021年 5月	ベトナム渡航、Thanh Binh Phu My (株) 入社

現在に至る。

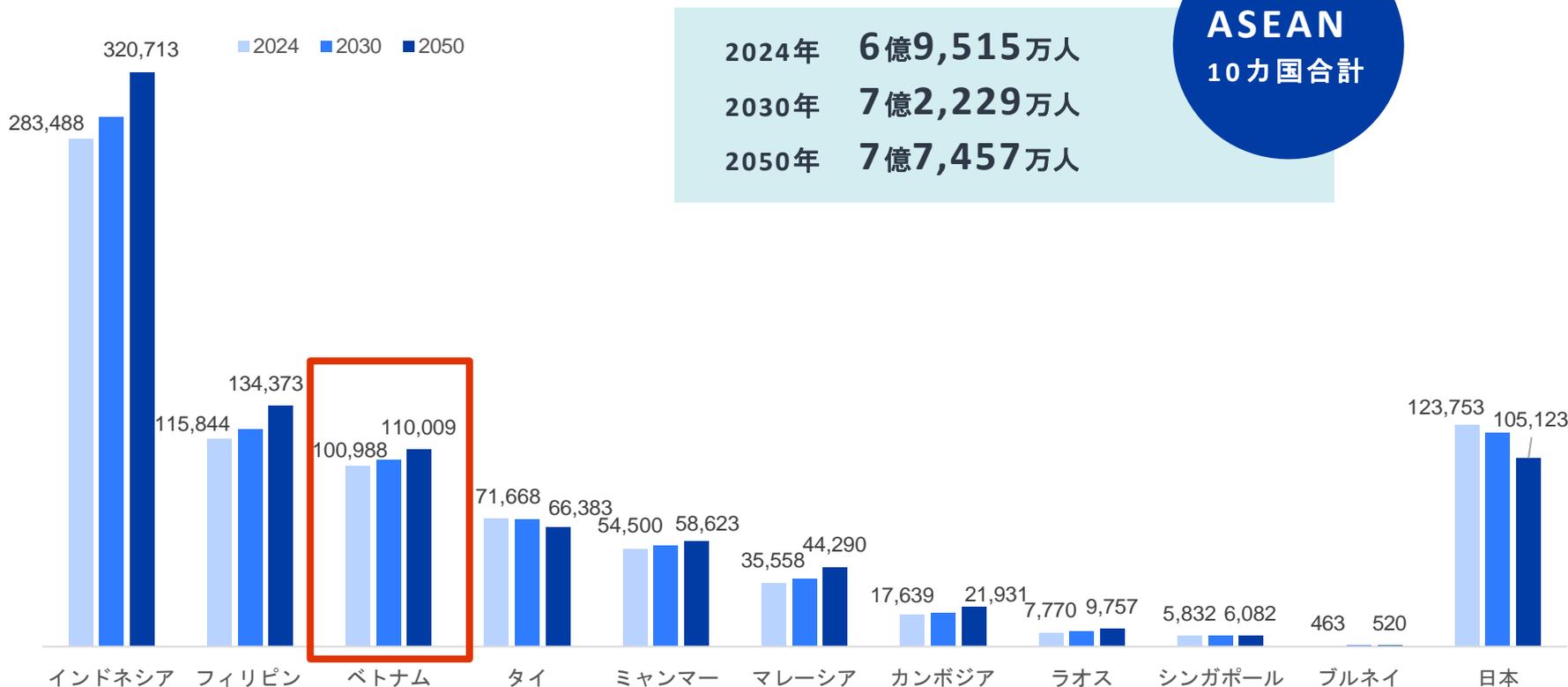
ベトナムの経済概況と進出日系企業動向

- I. ASEANの中でのベトナムの位置づけ
- II. 経済・貿易・投資の概況
- III. 日系企業の進出動向

人口の推移 ASEAN3位、将来的には日本を超える

人口の推移（2024年、2030年、2050年）

（単位：千人）



ASEAN
10カ国合計

2024年 6億9,515万人
2030年 7億2,229万人
2050年 7億7,457万人

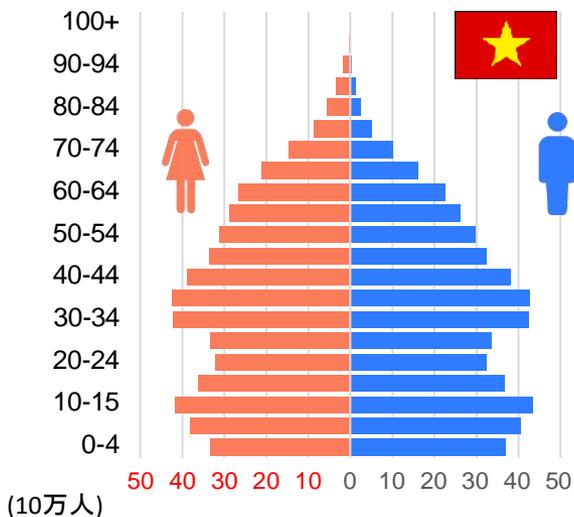
29.8歳 25.3歳 32.4歳 39.7歳 29.5歳 30.1歳 25.8歳 24.3歳 35.1歳 31.8歳 49.0歳

平均年齢

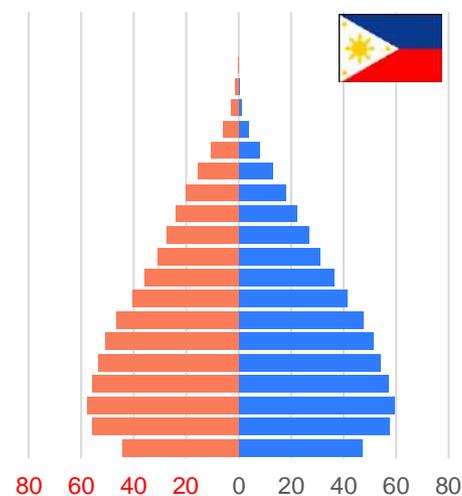
（注）人口は中位予測、平均年齢は2023年の中央値予測。
（出所）国連人口予測（2024年版）

人口ピラミッド (2024年)

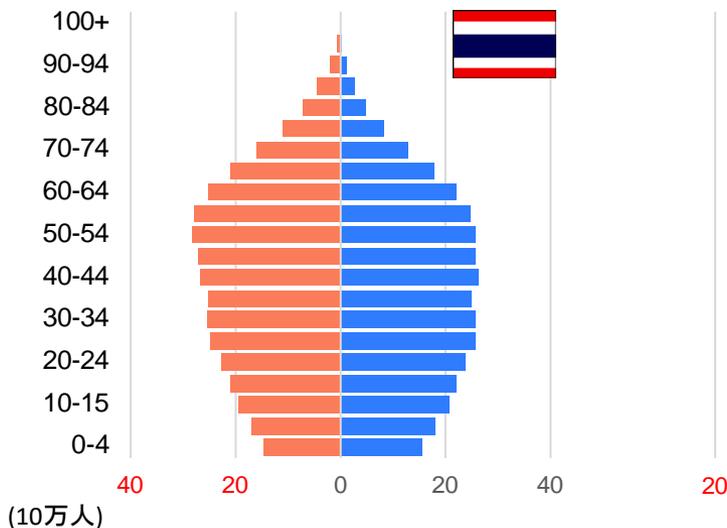
ベトナム



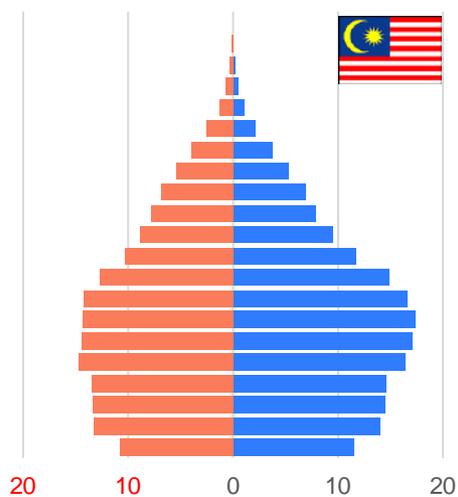
フィリピン



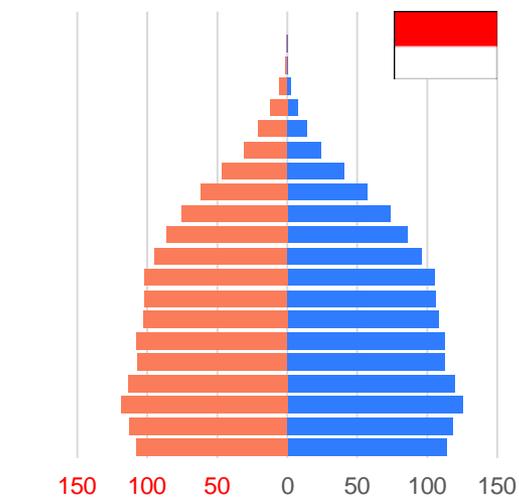
タイ



マレーシア

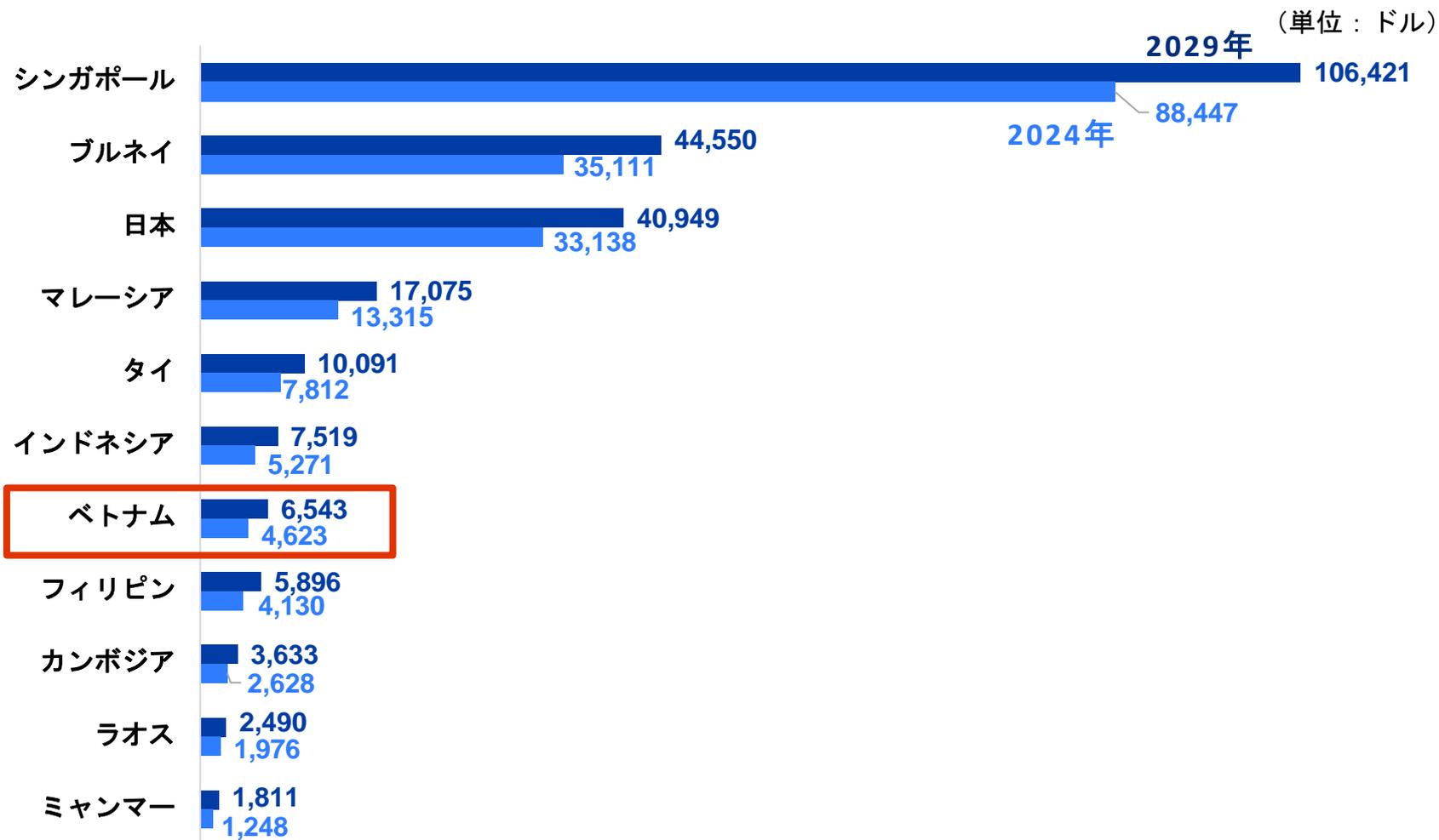


インドネシア



一人当たりGDP4,000ドルを超える水準

ASEAN各国の1人当たりGDP比較（2024年、2029年）



（注）2024年、2029年いずれも推計値

（出所）IMF, World Economic Outlook Database, Apr. 2024

日本とベトナムの年代別一人当たりGDP比較

1993年	日本 36,362.51ドル	ベトナム 234.98ドル	日本はベトナムの 154倍
2002年	日本 32,832.30ドル	ベトナム 546.56ドル	日本はベトナムの 60倍
2024年	日本 32,859.11ドル	ベトナム 4,649.05ドル	日本はベトナムの 7.06倍

日本人商工会の会員数はベトナムがASEANで最多

ASEAN各国日本人商工会議所の会員数

国名	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2018年からの増減
ベトナム	1,797	1,878	1,947	1,898	1,977	1,993	196
タイ	1,767	1,772	1,763	1,668	1,635	1,631	-136
フィリピン	814	828	854	848	840	832	18
シンガポール	821	815	823	796	786	790	-31
インドネシア	765	750	766	731	727	724	-41
マレーシア	593	593	590	616	592	599	6
ミャンマー	376	388	408	414	393	351	-25
カンボジア	256	264	270	254	252	250	-6
ラオス	92	102	107	114	111	110	18
ブルネイ	3	4	4	4	4	4	1
合計	7,284	7,394	7,532	7,343	7,317	7,283	-1

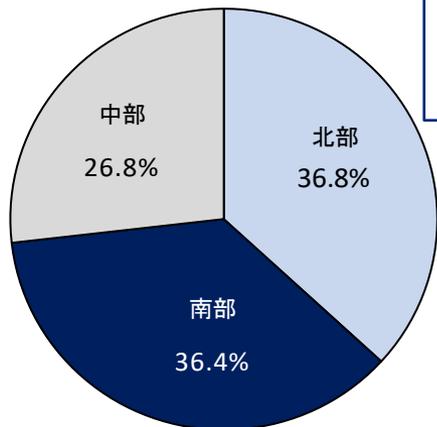
(注) 商工会議所会員数は各年度も6月時点。ベトナム、フィリピン、インドネシアは地方商工会議所の会員数も含む。
(出所) ASEAN日本人商工会議所連合会 (FJCCIA)

- I. ASEANの中でのベトナムの位置づけ
- II. **経済・貿易・投資の概況**
- III. 日系企業の進出動向
- IV. その他のTOPICS
～①自動車市場、②電力事情、③南部のインフラ開発

南北経済の差異

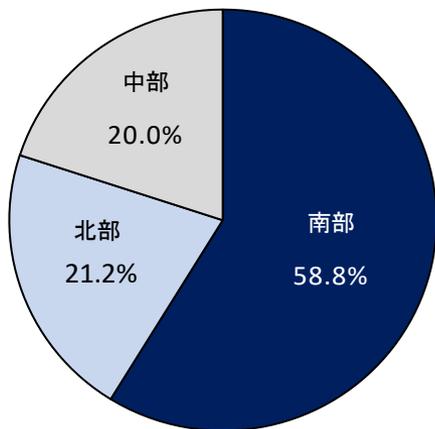
地域別人口割合

(2023年)



地域別米生産量割合

(2023年)



北部の特徴

政治の中心地（ハノイ）四季がある（湿度が高い）伝統を大切に、辛抱強い市場経済の経験乏しい消費より貯蓄を志向する

北部

中部の特徴

観光資源豊富
台風・洪水の被害多い
質素節約を旨とし勤勉
経済後発で大型案件による地域復興

中部

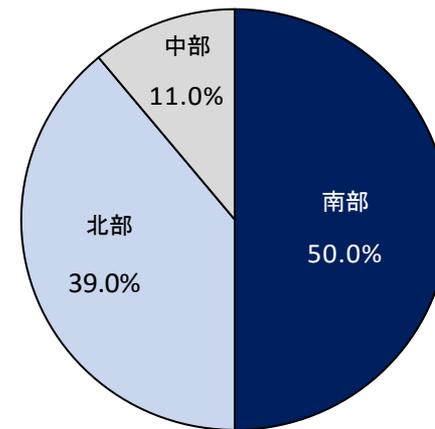
南部の特徴

経済の中心（ホーチミン市）
二季（雨季・乾季）
おおらかで楽天的
市場経済の経験豊か
新しもの好きで消費志向高い

南部

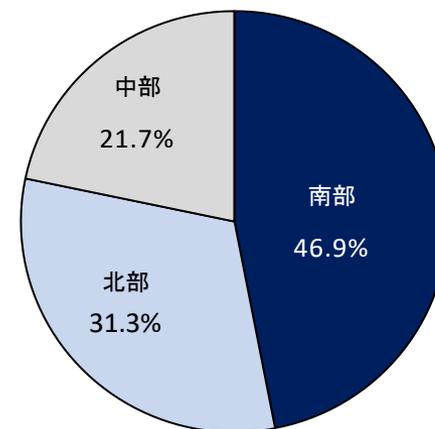
地域別工業生産額割合

(2023年)



地域別小売サービス売上割合

(2022年)



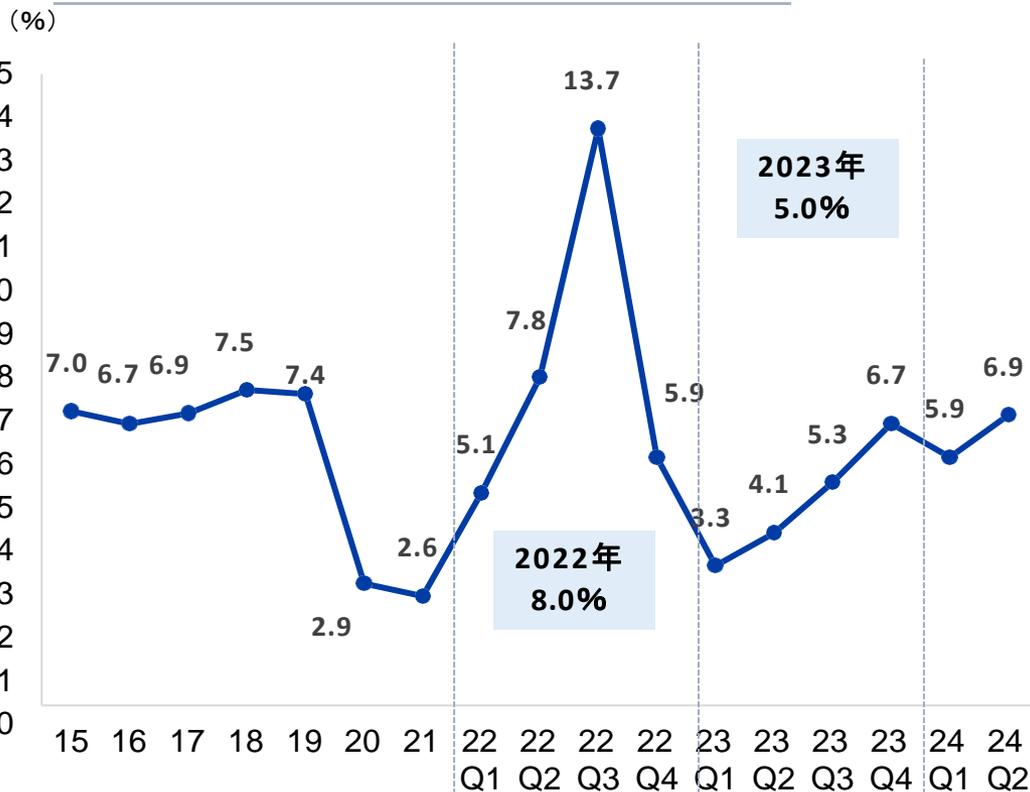
◎経済規模は南部＞北・中部

出所：ベトナム統計総局

GDP成長④

- 2022年は前年までの反動で8.0%と急成長したが、23年は5.0%に鈍化
- 鉱工業・建設業は3.7%で2011年以降最低の成長④。輸出が停滞し、内需の弱さも続いた
- 2024年に入り、輸出が復調傾向にあるのは明るい兆し

GDP成長④の推移（前年比、前年同期比）



2024年のGDP成長予測

- ベトナム政府目標 **7.0%**（2024年7月）
- WB **6.1%**（2024年8月）
- ADB **6.0%**（2024年9月）
- IMF **6.1%**（2024年9月）

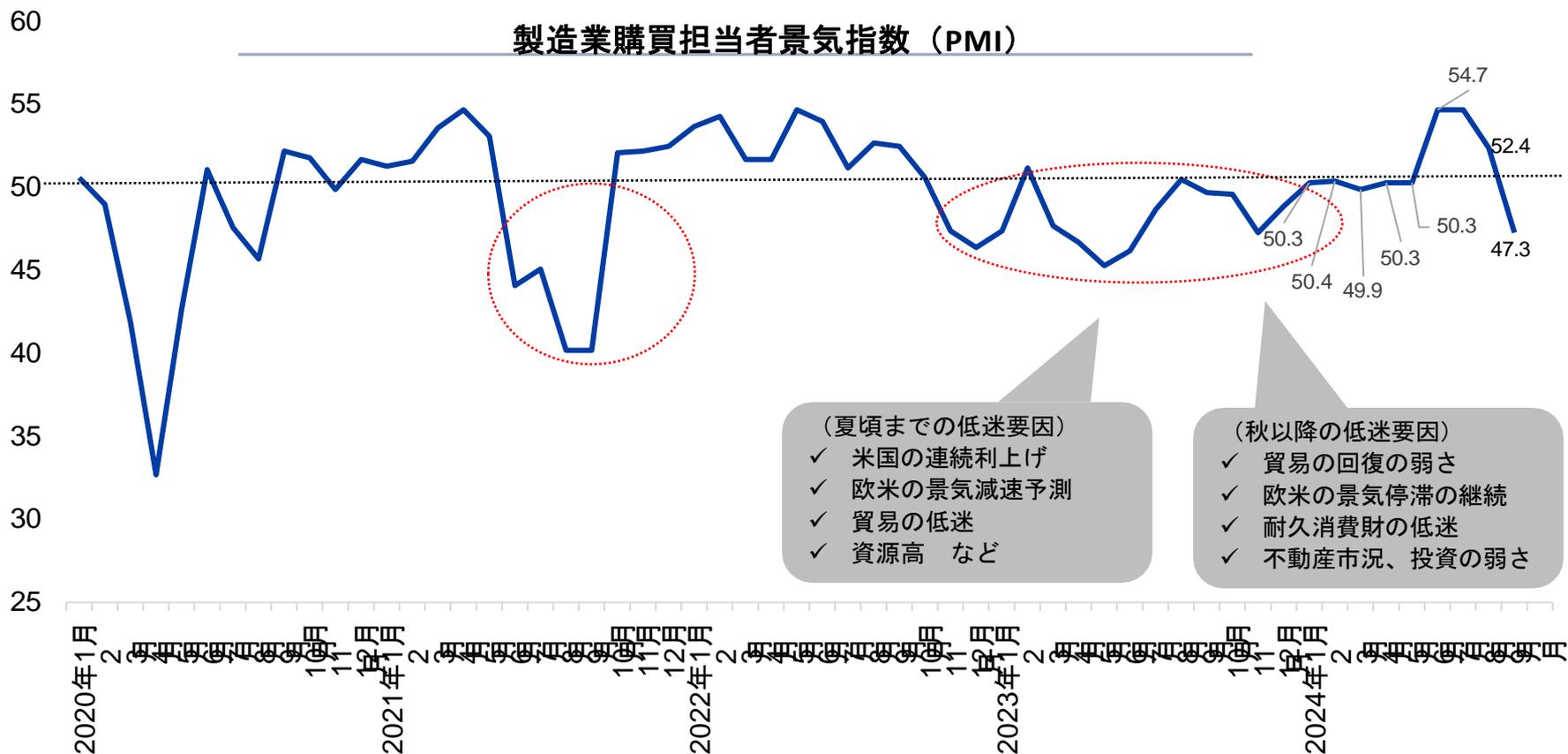
GDP部門別成長④（%）

分野	2023					2024	
	Q1	Q2	Q3	Q4	通年	Q1	Q2
農林水産業	2.9	3.7	3.7	4.1	3.8	3.4	3.3
鉱工業・建設業	△0.4	2.1	5.2	7.4	3.7	6.7	9.3
サービス業	6.6	6.2	6.2	7.3	6.8	6.2	7.1
計	3.3	4.1	5.3	6.7	5.0	5.9	6.9

（出所）ベトナム統計総局

製造業 購買担当者 景気指数

- ベトナムのPMIは、ウィズコロナに転換した21年10月以降は13カ月連続50超えだったが、22年11月から23年にかけて低迷。
- 24年1~5月は景況改善・悪化の境目となる50近傍で推移。6~7月は54超え、8月は52.4と改善。9月は北部直撃の台風11号の影響で47.3と大幅に悪化し、節目の50を6カ月ぶりに下回った。



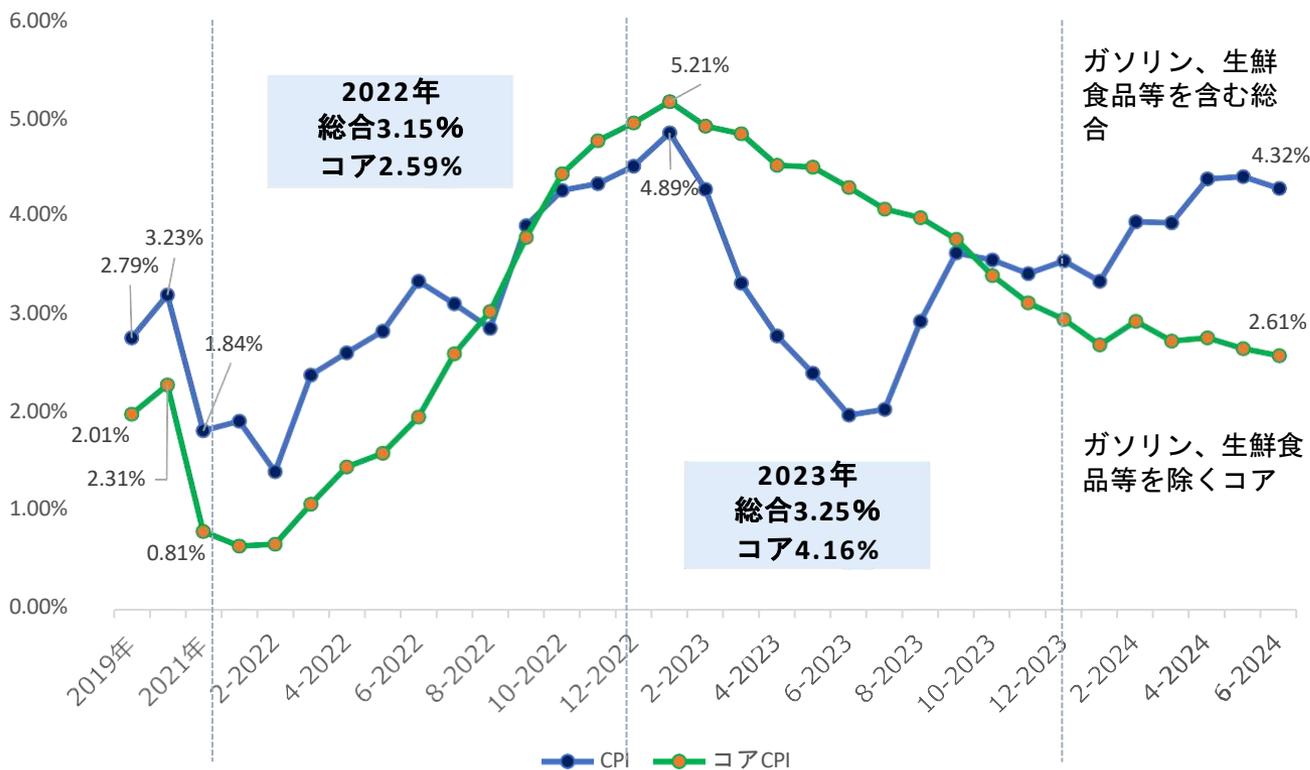
(注) 製造業の購買責任者を対象に、生産高や新規受注、在庫、雇用などの指数から算出。50を超えると「前月比で改善や増加」、50未満は「前月比で悪化や減少」を意味。

(出所) S&PグローバルおよびIHSマークイットからジェトロ作成

消費者物価指数（CPI）

- 23年は1月をピークに高騰していたエネルギー価格の一服などで2～6月に大きく低下。後半から再び上昇。
- 24年4～6月は4%超え。穀物価格高騰、電力需要増加と電気料金引き上げなどが影響。

CPIとコアCPIの推移（前年比・前年同月比／％）



24年財別CPI（前年同期比／％）

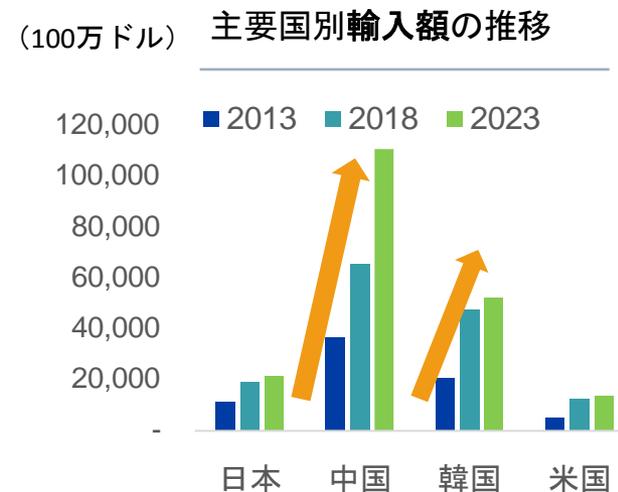
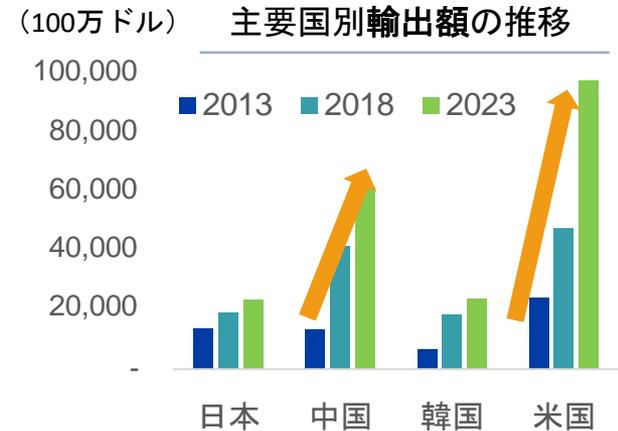
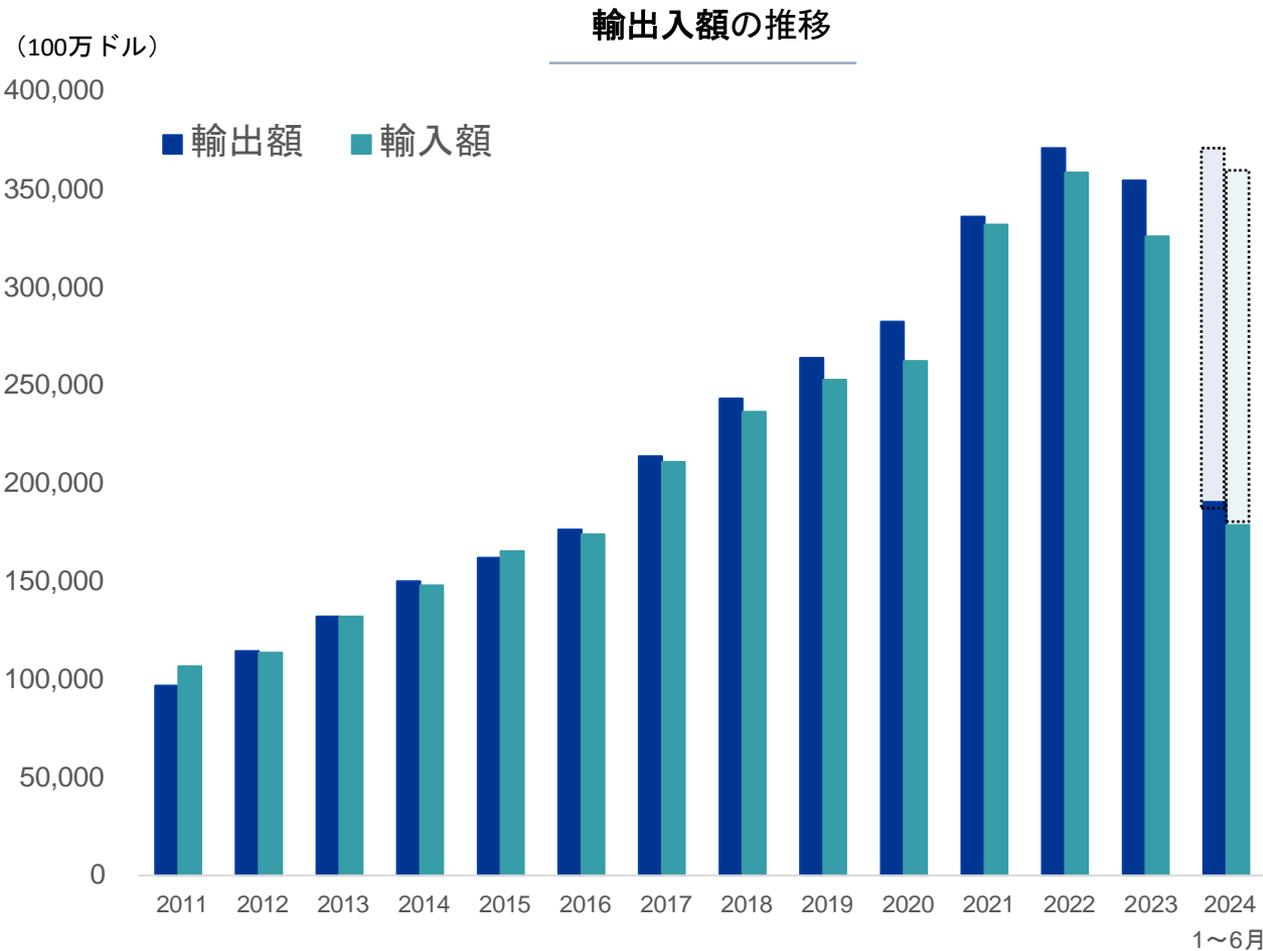
	2Q	1～6月
食品・飲食業	4.48	4.00
穀物	15.02	15.76
食品	2.86	2.05
外食	4.24	4.13
飲料・タバコ	2.61	2.47
被服・履物	1.66	1.60
住居・建築材	5.62	5.51
設備・家庭用品	1.31	1.26
薬・医療	7.63	7.07
交通	4.28	3.27
郵便・通信	▲1.36	▲1.41
教育	8.15	8.58
文化・エンタメ・旅行	2.10	1.72
その他製品・サービス	6.13	6.16
総合	4.39	4.08
コアCPI	-	2.75

（注）コアCPI：穀物、生鮮食品、エネルギー、国家管理材（医療・教育サービスなど）を除いた

（出所）ベトナム統計総局

貿易の推移

- 2023年の輸出額は2010年と比べて4.9倍に拡大。輸入額は3.8倍に拡大
- 2023年の貿易額は14年ぶりの前年割れ。2024年は、前年同期を上回り、堅調。



(出所) ベトナム税関総局

貿易の内訳：輸出入（2024年上半期）

- 2024年上半期は、輸入は前年同期比17.3%増の1,789億ドル、輸出は15.3%増の1,907億ドル。
- 輸出は上位10カ国すべてが前年同期比で増加。過去最高輸出額を記録した2022年の上半期の1,860億ドルを上回った。

輸入（国・地域別、品目別）

（単位：百万ドル、%）

国・地域	輸入額	構成比	前年同期比
①中国	66,728	37.3%	34.1
②韓国	26,760	15.0%	10.0
③日本	10,567	5.9%	3.5
④台湾	10,286	5.7%	17.6
⑤米国	7,104	4.0%	3.4
⑥タイ	5,569	3.1%	▲ 3.9
⑦インドネシア	4,789	2.7%	12.2
⑧マレーシア	4,727	2.6%	31.3
⑨クウェート	3,880	2.2%	28.5
⑩豪州	3,684	2.1%	▲ 14.0
合計	178,888	100%	17.3

品目	輸入額	構成比	前年同期比
①コンピュータ電子製品・同部品	49,322	27.6%	28.2
②機械設備・同部品	22,404	12.5%	15.1
③織布・生地	7,243	4.0%	12.8
④鉄鋼	5,970	3.3%	25.5
⑤プラスチック原料	5,434	3.0%	16.3
⑥金属類	4,563	2.6%	22.6
⑦電話機同部品	4,490	2.5%	25.7
⑧石油製品	4,393	2.5%	5.6
⑨原油	4,289	2.4%	19.4
⑩石炭	4,195	2.3%	14.5
合計	178,888	100%	17.3

輸出（国・地域別、品目別）

（単位：百万ドル、%）

国・地域	輸出額	構成比	前年同期比
①米国	55,140	28.9%	24.0
②中国	27,801	14.6%	5.8
③韓国	12,224	6.4%	10.3
④日本	11,414	6.0%	2.4
⑤オランダ	6,144	3.2%	27.2
⑥香港	6,001	3.1%	41.8
⑦インド	4,376	2.3%	12.3
⑧タイ	3,878	2.0%	8.2
⑨ドイツ	3,817	2.0%	3.2
⑩英国	3,573	1.9%	24.5
合計	190,735	100%	15.3

品目	輸出額	構成比	前年同期比
①コンピュータ電子製品・同部品	33,667	17.7%	31.5
②電話機・同部品	27,146	14.2%	11.8
③機械設備・同部品	23,156	12.1%	17.4
④縫製品	16,523	8.7%	4.6
⑤履物	10,718	5.6%	8.8
⑥木材・木製品	7,476	3.9%	23.2
⑦輸送機器・同部品	7,211	3.8%	7.8
⑧鉄鋼	4,778	2.5%	12.2
⑨水産物	4,413	2.3%	6.2
⑩ビデオカメラ・同部品	4,026	2.1%	50.7
合計	190,735	100%	15.3

貿易の内訳：輸出入（2023年）

- 2023年は、輸入は前年比9.2%減の3,264億ドル、輸出は4.6%減の3,547億ドル。
- 中国向け輸出が、2023年1月のコロナ防疫措置緩和の影響で増加。品目別の輸出は、コンピュータ電子製品が増加となったが、電話機（特に米国向け）、アパレル、履物、木製品、水産物など主要輸出産業が軒並み減速。

2023年1～12月の輸入（国・地域別、品目別）

（単位：百万ドル、%）

国・地域	輸入額	構成比	前年同期比
①中国	110,645	33.9%	▲ 6.6
②韓国	52,511	16.1%	▲ 15.6
③日本	21,638	6.6%	▲ 7.5
④台湾	18,421	5.6%	▲ 18.6
⑤米国	13,822	4.2%	▲ 4.5
⑥タイ	11,797	3.6%	▲ 16.3
⑦インドネシア	8,729	2.7%	▲ 9.3
⑧豪州	8,533	2.6%	▲ 15.7
⑨マレーシア	7,809	2.4%	▲ 14.4
⑩クウェート	5,881	1.8%	▲ 10.4
合計	326,374	100%	▲ 9.2

品目	輸入額	構成比	前年同期比
①コンピュータ電子製品・同部品	87,966	27.0%	7.4
②機械設備・同部品	41,580	12.7%	▲ 7.9
③織布・生地	13,017	4.0%	▲ 11.5
④鉄鋼	10,425	3.2%	▲ 12.5
⑤プラスチック原料	9,755	3.0%	▲ 21.2
⑥電話機同部品	8,749	2.7%	▲ 58.6
⑦石油製品	8,365	2.6%	▲ 6.7
⑧化学原料	7,727	2.4%	▲ 15.5
⑨金属類	7,627	2.3%	▲ 17.6
⑩化学製品	7,605	2.3%	▲ 13.0
合計	326,374	100%	▲ 9.2

2023年1～12月の輸出（国・地域別、品目別）

（単位：百万ドル、%）

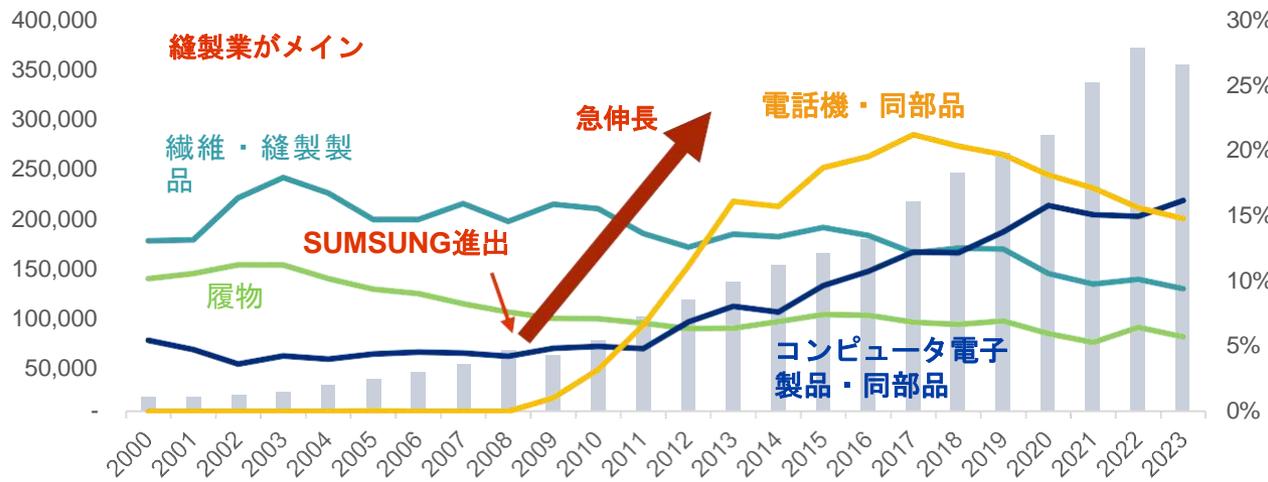
国・地域	輸出額	構成比	前年同期比
①米国	97,020	27.4%	▲ 11.3
②中国	61,208	17.3%	5.6
③韓国	23,499	6.6%	▲ 3.3
④日本	23,315	6.6%	▲ 3.8
⑤オランダ	10,242	2.9%	▲ 1.8
⑥香港	9,632	2.7%	▲ 11.9
⑦インド	8,499	2.4%	6.8
⑧ドイツ	7,400	2.1%	▲ 17.5
⑨タイ	7,192	2.0%	▲ 4.3
⑩英国	6,345	1.8%	4.6
合計	354,671	100%	▲ 4.6

品目	輸出額	構成比	前年同期比
①コンピュータ電子製品・同部品	57,336	16.2%	3.2
②電話機・同部品	52,379	14.8%	▲ 9.7
③機械設備・同部品	43,128	12.2%	▲ 5.7
④縫製品	33,329	9.4%	▲ 11.4
⑤履物	20,238	5.7%	▲ 15.3
⑥輸送機器・同部品	14,157	4.0%	18.1
⑦木材・木製品	13,468	3.8%	▲ 15.9
⑧水産物	8,971	2.5%	▲ 17.8
⑨鉄鋼	8,350	2.4%	4.5
⑩ビデオカメラ・同部品	7,619	2.1%	19.5
合計	354,671	100%	▲ 4.6

【ご参考】 貿易額推移、主要国地域別輸出入額（輸出）

輸出：品目別シェア

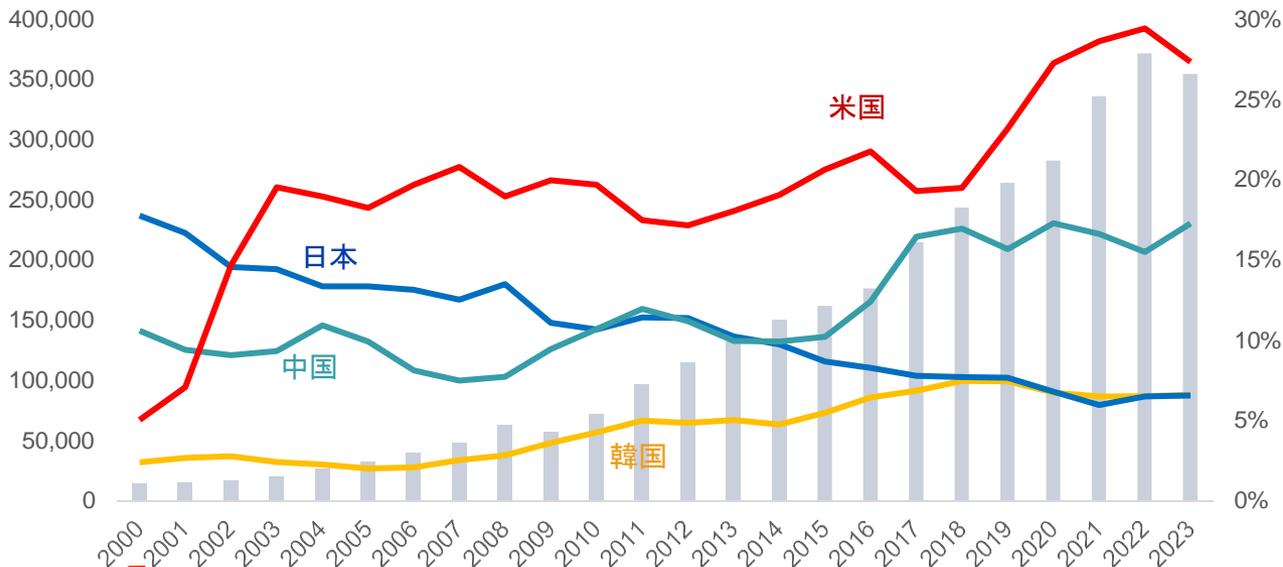
単位：100万ドル、%



- 1990年代～2000年代初期：縫製業などの労働集約型産業が発達。日本などの市場に輸出。
- 2000年代後半：韓国企業の進出により米国向けの電子機器類の輸出が拡大

輸出：地域別シェア

単位：100万ドル、%



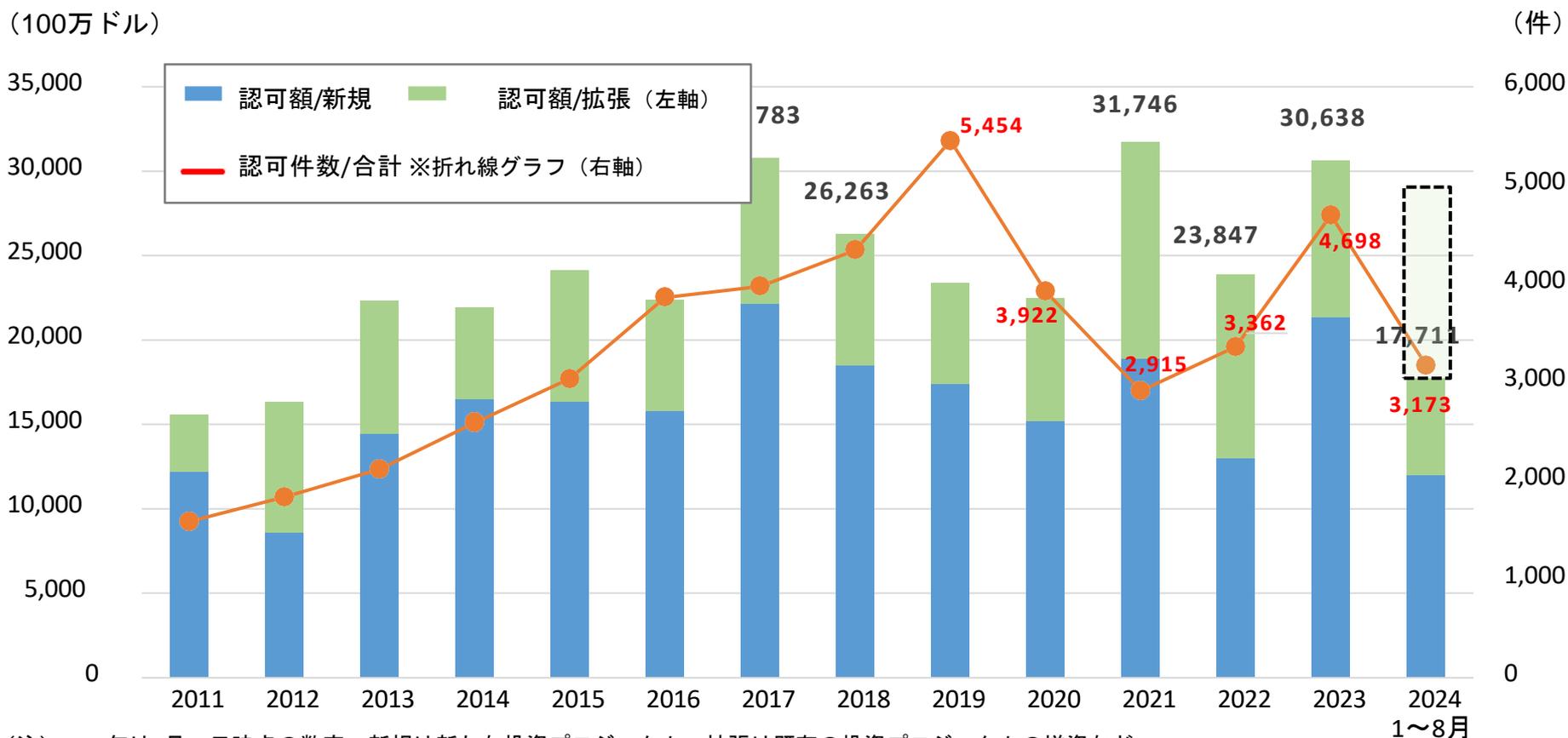
米越通商協定発効

(出所) ベトナム統計総局、税関総局

外国からの直接投資の推移

- 2023年の認可件数は4,450件、認可額は約281億ドル。認可件数・認可額とも前年より増加。
- 件数は2010年代より減少傾向も、認可額は製造業の拡張投資、エネルギー案件が下支え。

世界の対ベトナム直接投資（認可ベース、出資・株式購入含まず）



(注) 2024年は8月31日時点の数字。新規は新たな投資プロジェクト。拡張は既存の投資プロジェクトの増資など。

(出所) ベトナム外国投資庁 (FIA)

外国からの直接投資（国・地域別）

- 日本の投資認可累計額は2013年に1位だったが、2014年～2022年は2位、現在、韓国、シンガポールに次ぐ3位となった。ただし、累計件数では韓国に次ぐ、2位を保っている。
- 2023年から中国・香港、台湾からの投資が堅調。日本は2023年から出資・株式購入が増加傾向。

国・地域別の投資認可状況

（単位：件、100万ドル）

投資認可（出資・株式購入含まず） の累計（1988年～2024年8月）				2024年1～8月の投資認可						
国・地域	直接投資 件数	直接投資 認可額	構成比	国・地域	直接投資 件数	前年 同期比	直接投資 認可額	前年 同期比	出資・株式 購入件数	出資・株式 購入額
韓国	10048	87780	17.9%	シンガポール	417	29.1%	6189	117.1%	218	601
シンガポール	3792	80695	16.4%	香港	334	42.1%	2321	65.6%	59	82
日本	5420	79274	16.1%	中国	808	59.7%	2135	▲16.5%	323	140
台湾	3218	40477	8.2%	日本	275	▲7.4%	1710	117.7%	140	809
香港	2678	36845	7.5%	韓国	503	▲6.3%	1493	▲31.6%	568	350
中国	4865	29103	5.9%	台湾	202	1.5%	1149	20.8%	183	193
合計（※）	41,142	491,388	100%	合計（※）	3173	15.2%	17711	32.1%	2196	2813

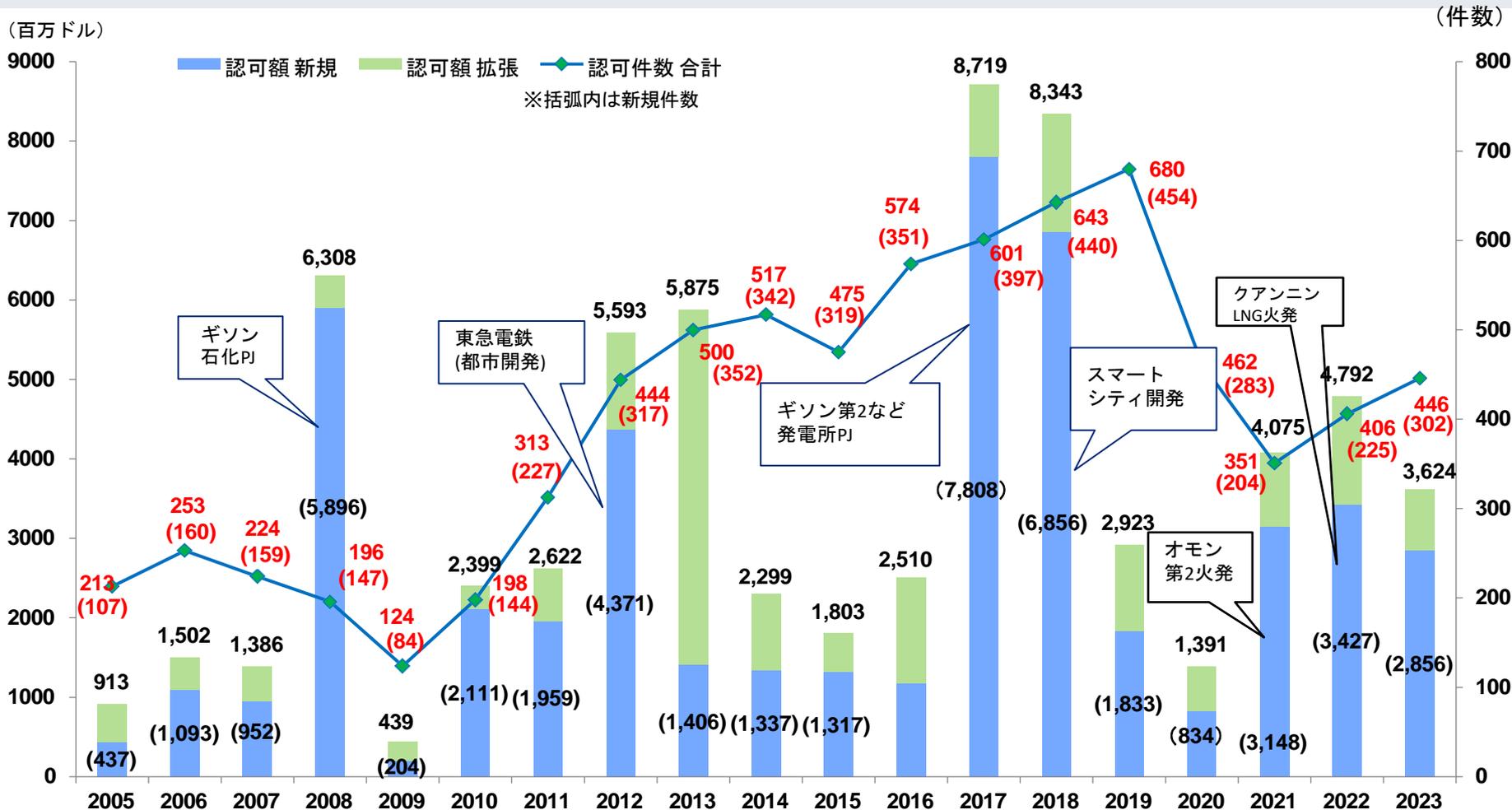
（注）合計は「その他」も含む。

（出所）外国投資庁（FIA）の2024年8月31日時点のデータをもとにジェトロ作成

- I. ASEANの中でのベトナムの位置づけ
- II. 経済・貿易・投資の概況
- III. 日系企業の進出動向**

日系企業の進出動向

- 2000年以降「チャイナプラスワン」の候補として注目を浴びる。近年は米中貿易摩擦によるリスク回避、サプライチェーンの再構築、更には、消費市場としての期待も高まり投資が伸びている。
- 2023年は446件(9.9%増)/36億2千万ドル(24.4%減)。うち新規投資件数302件/金額28億6千万ドル。



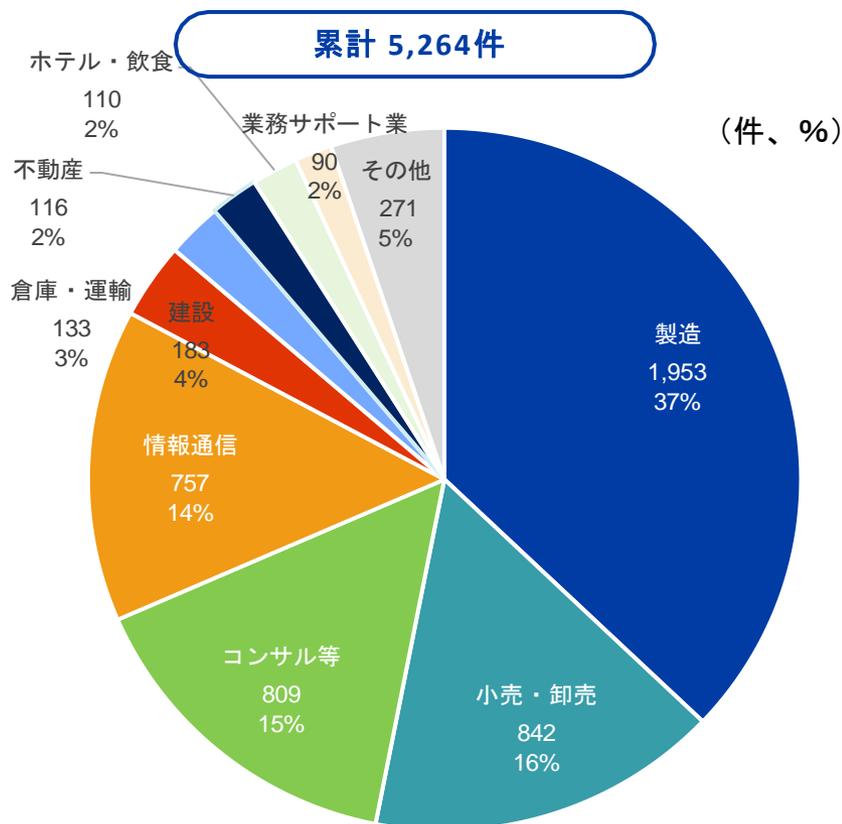
出所：FIA（外国投資庁）データをもとにジェトロ作成（認可取り消し案件も含む）。
2023年は12月20日時点の速報値

日本からの新規投資プロジェクト（件数×業種）

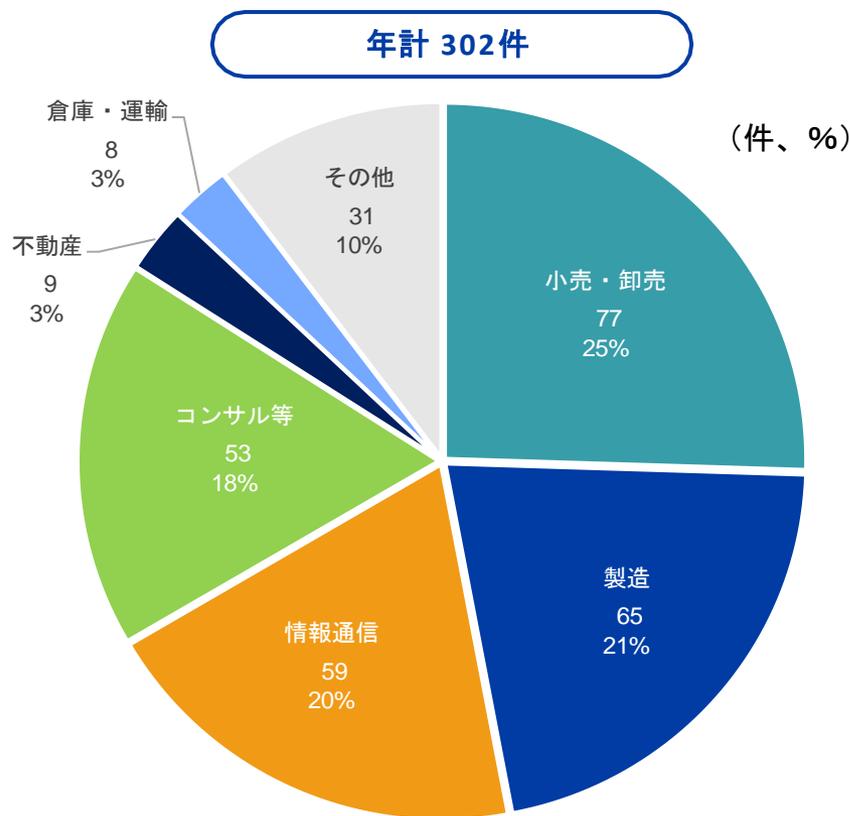
- 日本からの新規投資プロジェクトへの認可件数は累計では製造業がトップだが、近年、日本からの投資は非製造業の比率が高まっている。

（2018年までは製造が首位。2019年はコンサル等が首位、2020年以降は小売・卸売が首位）

1988年～2023年累計の業種別内訳



2023年の業種別内訳



※コンサル等・・・税務、法務、ビジネスコンサル、建築・設計業務、R&D、広告・市場調査等

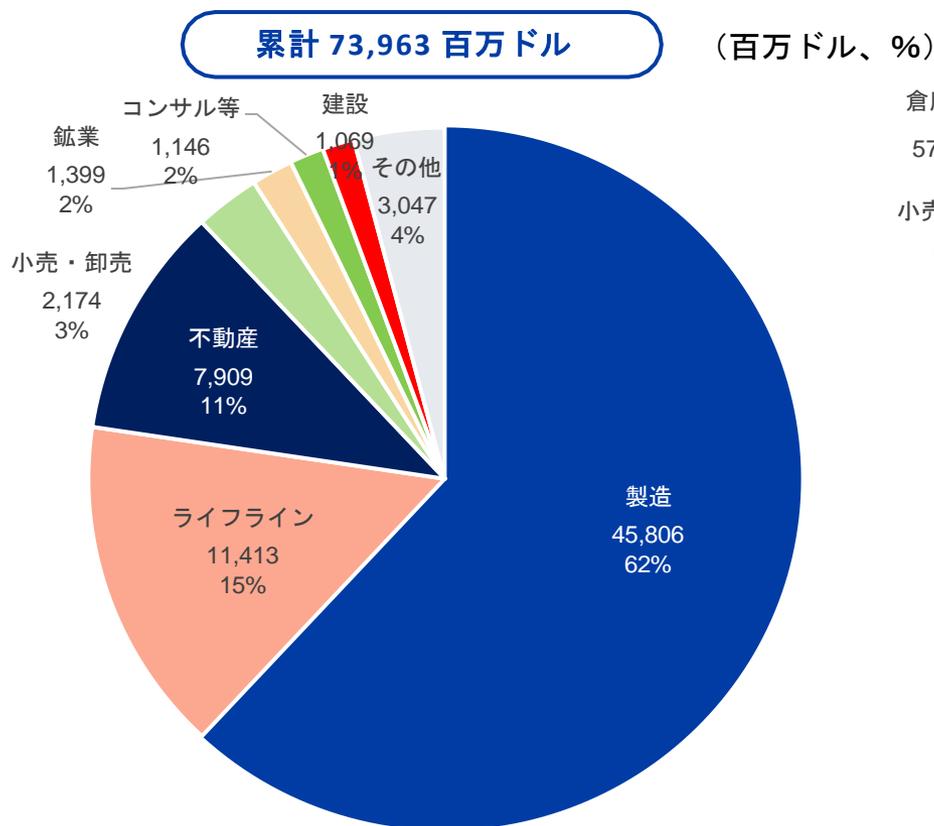
※2023年は12月20日時点の速報値

(出所) ベトナム外国投資庁データをもとにジェトロ作成

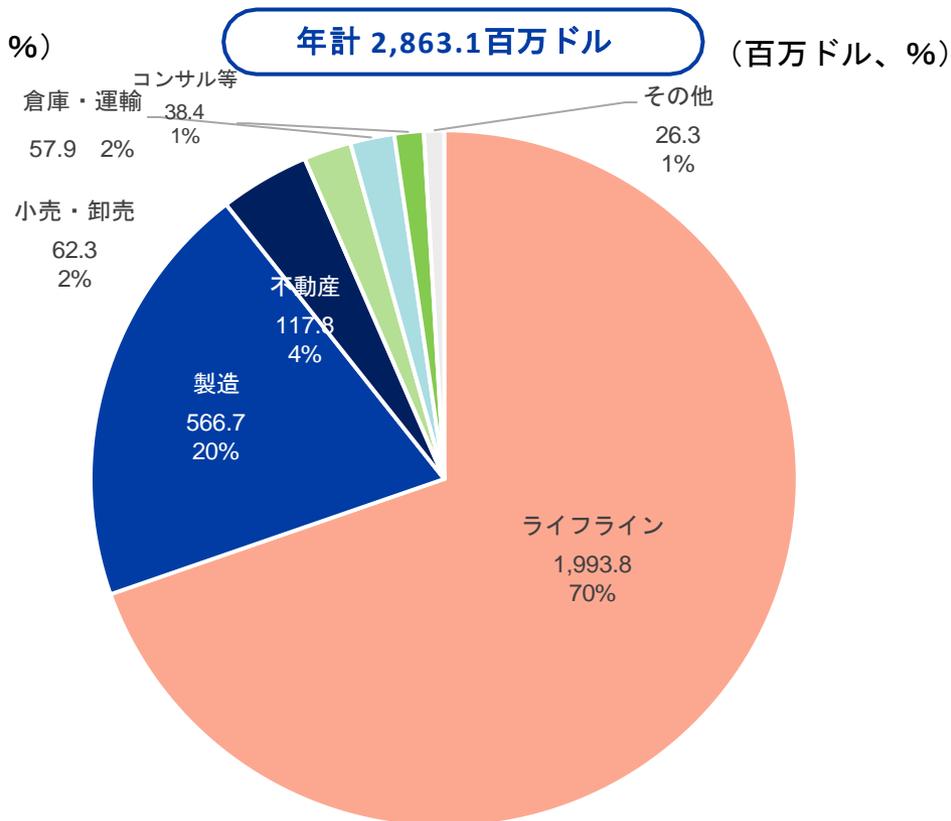
日本からの新規投資プロジェクト（金額×業種）

- 近年業種の多角化が進む一方、投資認可金額は製造業が引き続きけん引。
- 2023年はライフライン分野で東京ガスと九州電力傘下のキューデン・インターナショナルが出資するLNG火力発電所（タイビン省、19億ドル）が最大の案件。

1988年～2023年累計の業種別内訳



2023年の業種別内訳



※コンサル等・・・税務、法務、ビジネスコンサル、建築・設計業務、R&D、広告・市場調査等は12月20日時点の速報値

(出所) ベトナム外国投資庁データをもとにジェトロ作成

日本からの新規投資 製造業 (省・市別)

2021年

地域および省・市	件数	認可額
北部	21	971
フンイエン	8	
ヴィンフック	5	
ハナム	4	
バクニン	2	
ハイフォン	1	
フートオ	1	
中部	5	26
ゲアン	2	
ダナン	1	
クアンガイ	1	
ラムドン	1	
南部	16	121
ビンズオン	5	
ドンナイ	4	
ロンアン	4	
ホーチミン	1	
ビンフック	1	
ドンタップ	1	
合計	42	1,118

(単位：件、百万ドル)

2022年

地域および省・市	件数	認可額
北部	19	550
ハナム	4	
ハイズオン	3	
ハイフォン	3	
ヴィンフック	2	
バクニン	2	
フンイエン	2	
ハノイ	1	
フートオ	1	
タイビン	1	
中部	2	10
ビンディン	1	
ゲアン	1	
南部	20	316
ドンナイ	7	
ホーチミン	4	
ビンズオン	4	
バリアブンタウ	2	
ロンアン	2	
ヴィンロン	1	
合計	41	876

2023年

地域および省・市	件数	認可額
北部	26	385
フンイエン	6	140
クアンニン	4	81
ヴィンフック	3	60
ハイズオン	3	33
トゥエンクアン	1	20
イエンバイ	1	20
タイグエン	1	19
バクニン	3	6
ハナム	3	4
ハイフォン	1	2
中部	10	82
タインホア	2	41
ゲアン	2	20
トゥアティエン・フエ	3	19
ダナン	2	1
ラムドン	1	1
南部	29	100
ロンアン	12	36
ホーチミン	3	27
ドンナイ	10	24
ビンズオン	1	10
バリア・ヴンタウ	2	2
ビンフック	1	1
合計	65	567

(注) 2023年は12月20日時点の速報値

(出所) FIA (外国投資庁) データ等をもとにジェトロ作成

日系企業進出動向～南北の違い

【北部（主要都市：ハノイ、ハイフォン）】

- 独資輸出加工型（大企業セットメーカーを中心に）：
キヤノン、パナソニック、ブラザー、
京セラミタ、デンソー、ブリヂストン など
 - 内需・合併型（二輪・四輪）：
トヨタ、ホンダ、ヤマハ など
- ＋部品サプライヤーの進出

- チャイナ+1に加え、タイ+1、更にはベトナム第2工場(拡張)の動きも目立つ。内需を狙う進出も徐々に増加。

【中部（主要都市：ダナン）】

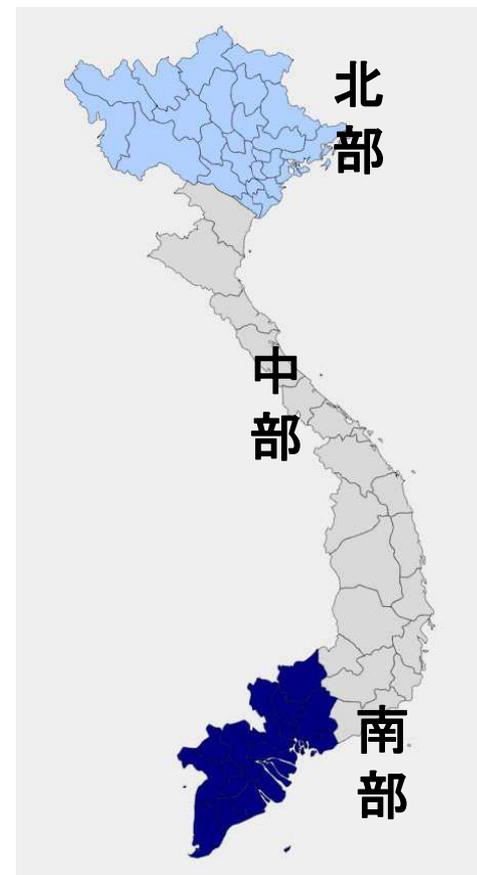
- 輸出加工型：
フォスター電機、マブチモーター、フジクラ、東海ゴム工業 など
- 「環境配慮型のエコ・シティ」を目指す。IT、ハイテク産業を誘致。大型インフラ案件、リゾートホテルなど不動産関連投資も目立つ。

【南部（主要都市：ホーチミン）】

- 輸出加工型（大企業の進出もあるが、中堅・中小部品メーカーが主体）：
日本電産、富士通、オムロン、オリンパス など
- 内需型（食品・小売・飲食）：
 - ・ 味の素、エースコック、日清食品、ヤクルト、サッポロビール、麒麟HD、サントリー、キューピー、ハウス食品、亀田製菓、大塚製菓、伊藤園 など
 - ・ イオン、高島屋、ファミリーマート、セブンイレブン、ミニストップ、ダイソー、ユニクロ、良品計画、コーナン、マツモトキヨシ、ABCマート、ニトリ など
 - ・ 牛角、ペッパーランチ、丸亀製麺、一風堂、和民、CoCo壱番屋、すき家、吉野家、山崎製パン など

- 旺盛な内需を狙った卸売・小売での進出が目立つ。またM&Aも増加している。製造業では、チャイナ+1、タイ+1の進出もあり。今後はエネルギー、インフラ案件の投資も見込まれる。

(出所)外国投資庁(FIA)、ベトナム日本商工会議所など

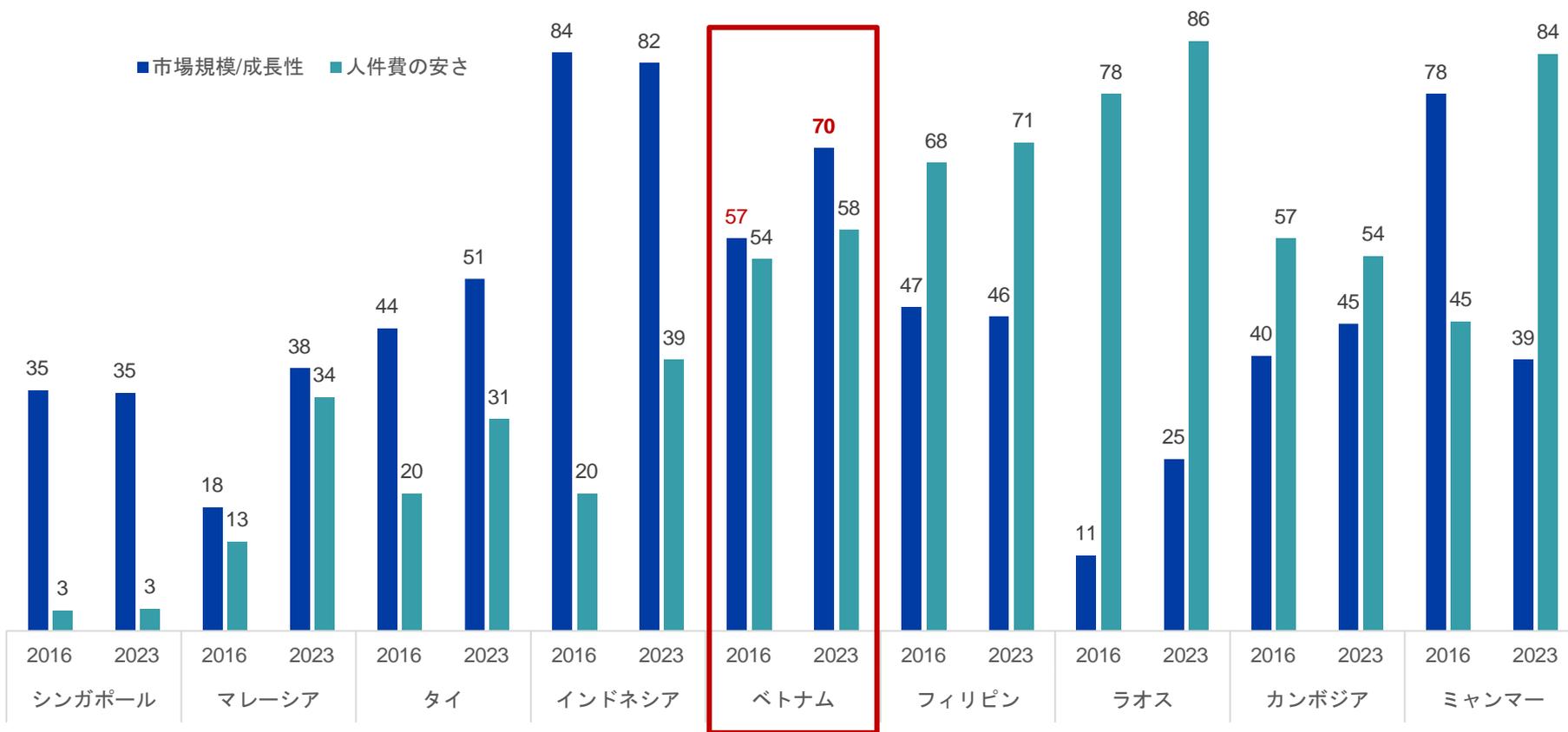


【参考】日本からの投資累計：
4,793件/643億ドル（21年末時点）

生産拠点としてみるか、消費市場としてみるか

- ベトナムは、他のASEAN各国と比べて、生産拠点（＝人件費の安さがメリット）としても、消費市場（＝市場規模・成長性がメリット）としても、注目される国となっている。

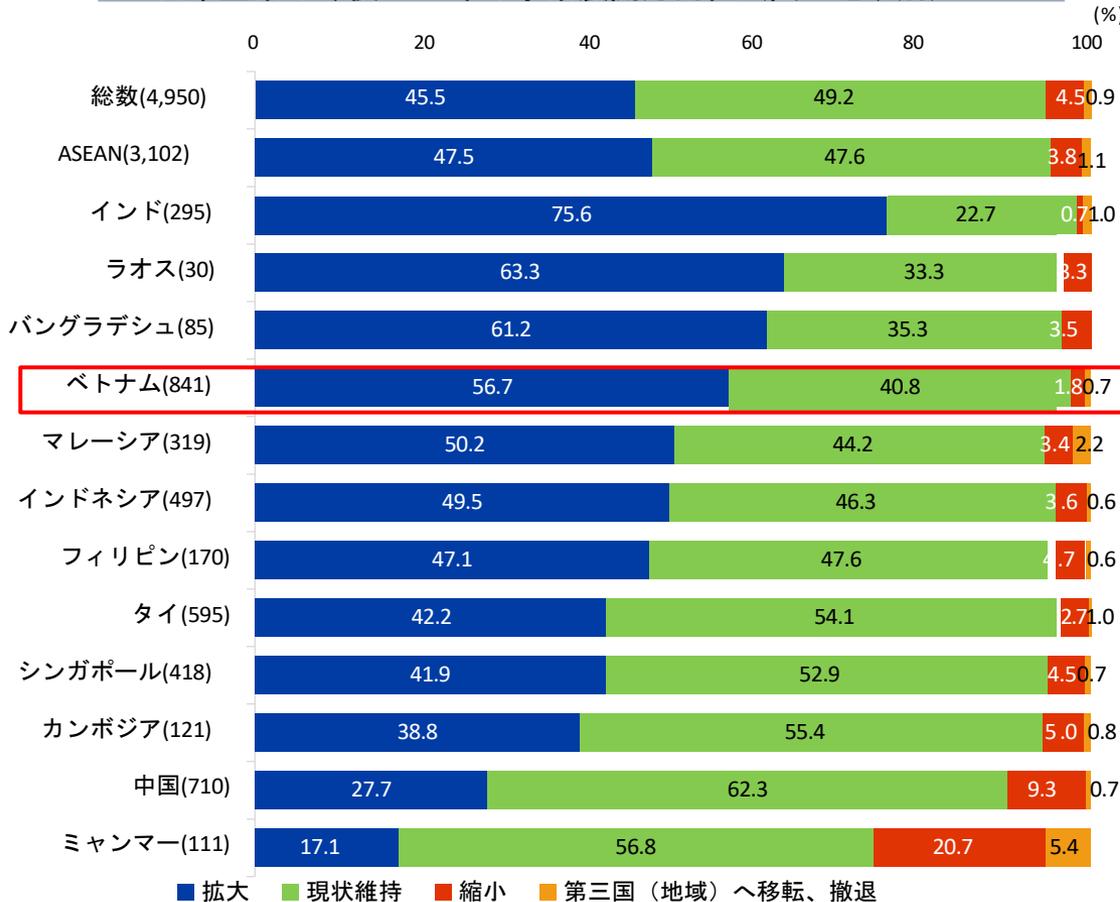
ASEAN各国の投資環境上のメリット（市場規模／成長性と人件費の安さの比較）



日本企業の事業拡大方針

- 在ベトナム日系企業の56.7%が今後1～2年で事業を拡大する方針。拡大意欲はASEAN6で1位。
- 海外事業を展開する日本企業（日本の本社側）のうち、ベトナムでの事業拡大を検討する企業が26.5%。国・地域別では米国に次いで2位。

日系企業の今後1～2年の事業展開方向性（国・地域別）



日本本社の検討する今後の事業拡大先

上位10か国・地域

2023年度 (n=1,180)	(複数回答、%)
1 米国	28.1
2 ベトナム	24.9
3 中国	22.6
4 EU	18.6
5 タイ	17.5
6 インド	16.2
7 インドネシア	13.9
8 台湾	13.6
9 シンガポール	9.7
10 マレーシア	7.6

(出所) ジェトロ日本企業の海外事業展開にかかるアンケート調査（2023年度）

人材と雇用～ベトナム投資の魅力と課題

ベトナム投資環境上のメリットとリスク(%)

順位	メリット	割合
1	市場規模/成長性	70.2
2	安定した政治・社会情勢	58.7
3	人件費の安さ	58.3
4	駐在員の生活環境	38.9
5	ワーカー等の雇用のしやすさ	31.2

順位	リスク	割合
1	行政手続きの煩雑さ(許認可など)	62.4
2	人件費の高騰	62.1
3	法制度の未整備・不透明な運用	59.1
4	税制・税務手続きの煩雑さ	53.7
5	現地政府の不透明な政策運営(注)	44.3

(注)政策運営とは産業政策、エネルギー政策、外資規制を指す。

(出所)2023年度ジェトロ海外進出日系企業実態調査

労働契約

- 契約形態：有期雇用契約(36か月以内)の更新は1回のみ。2回目からは無期限の労働契約となる。
- 試用期間：①管理職人材：180日、②高度専門技術者：60日、③中級程度の技術労働者など：30日、④その他：6日

労働時間

- 労働時間：1日8時間以内かつ週48時間以内
- 休日：週最低1日、祝日11日
- 有給休暇は初年度年間12日、以降5年ごとに1日増
- ※ 残業は1日4時間、月40時間、かつ年間200時間まで
- (一部の業種では300時間まで許容)

最低賃金

- 最低賃金は政令に基づき域別に設定されている。
- エリア1(ハノイ市、ハイフォン市、ホーチミン市など)：496万ドン
- エリア2(ダナン市、バクニン省など)：441万ドン
- エリア3(ハナム省、ハイズオン省など)：386万ドン
- エリア4(上記1-3以外)：345万ドン

周辺諸国との賃金格差(基本給月額(平均値)、2023年8月時点)

単位：米ドル

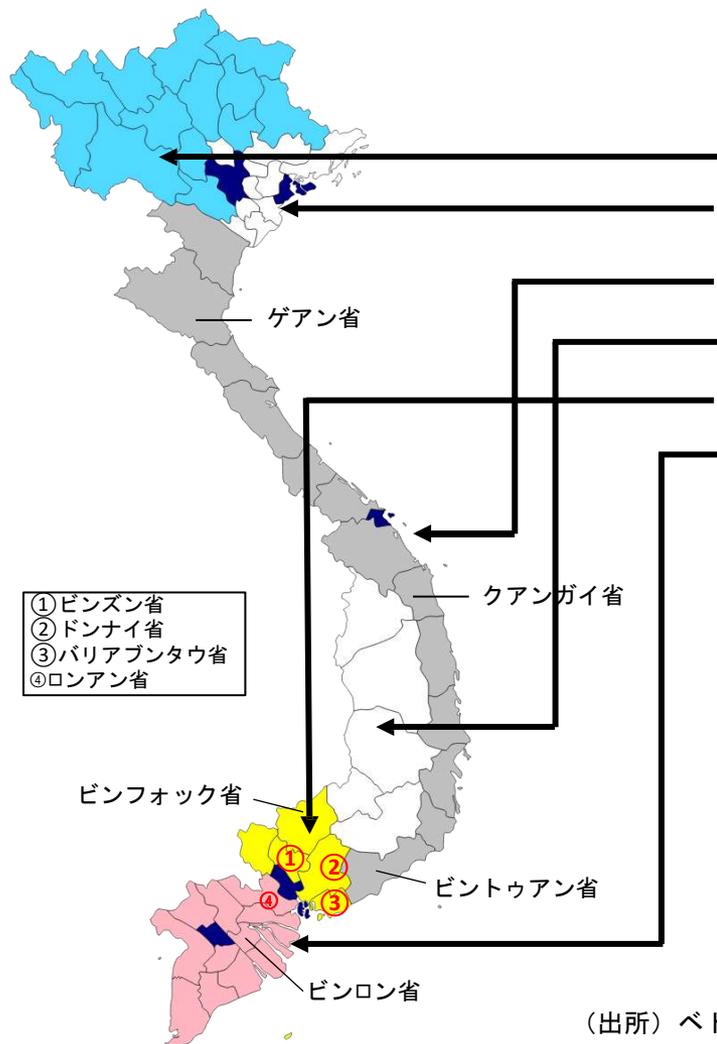


- 基本給：諸手当を除いた給与
- 製造業・作業員：実務経験3年程度。同・エンジニア：専門学校/大卒以上、実務経験5年程度。同・マネージャー（製造業）：大卒以上、実務経験10年程度。
- 非製造業・スタッフ：実務経験3年程度の一般職。同・マネージャー：大卒以上、実務経験10年程度。

(米ドル換算レートは2023年8月の平均為替レート(中央銀行発表)を参考とする)
 (出所)2023年度ジェトロ海外進出日系企業実態調査、ベトナム統計総局

ベトナム-プラスワンは地方か？ ～地方・農村部の可能性

- 都市部では労働需給が引き締まり賃金が上昇傾向にある中、総人口の約6割は居住する地方・農村部の労働力に期待が高まる。
- ベトナムは、職があれば家族と暮らせる地元で働きたいとする人材が多い。



地域別の平均月額賃金（2023年暫定値）

地域	賃金（円）	地域格差 (2022年)	地域格差 (2023年)
北部丘陵・山岳地域	32,200	59	60
紅河デルタ	50,900	91	95
北中部・中部沿岸地域	38,250	68	71
中部高原	30,770	57	57
南東部	53,570	100(基準)	100(基準)
メコンデルタ	39,000	69	73

在ベトナム日系製造業が地方に進出した例

社名	時期	進出先
マツオカコーポレーション	2019年11月設立	ゲアン省
HOYA	2019年11月稼働開始	クアンガイ省
日機装	2020年6月設立	クアンガイ省
古河AS	2020年6月設立	ビンロン省
TOWA JAPAN	2020年11月稼働開始	ビンロン省

（出所）ベトナム統計総局、各社ホームページ、プレスリリース（最終閲覧：2021年2月27日）など

ベトナムの賃金レベル(月額)

製造業・ワーカー：273ドル（40,950円）

製造業・エンジニア：529ドル（79,350円）

製造業・マネージャー：1,107ドル（166,050円）

非製造業・スタッフ：723ドル（108,450円）

非製造業・マネージャー：1,575ドル（236,250円）

※日本円：1ドル=150円換算

メモ

風間：52年前（1972年）の初任給は51,500円

当時1ドル=308円だったので、167ドル

総合力でのベトナム？ 各国の投資環境上のリスク

- ベトナムよりも賃金が安価なCLM諸国や、バングラデシュは不安定な政治・社会情勢、為替が上位にランクインする。
- ワーカーの賃金水準で近いフィリピンは、自然災害などのリスクの不安さから敬遠する声も。

国 (ワーカー月額基本給)	1位	2位	3位	4位	5位
ベトナム (273USD)	行政手続きの煩雑さ (許認可等) (62.4%)	人件費の高騰 (62.1%)	法制度の未整備・不 透明な運用 (59.1%)	税制・税務手続きの 煩雑さ(53.7%)	現地政府の不透明な 政策運営 (注1)(44.3%)
フィリピン (271USD)	税制・税務手続きの 煩雑さ(63.4%)	行政手続きの煩雑さ (注2)(53.4%)	自然災害(50.9%)	現地政府の不透明な 政策運営(注1)/法制 度の未整備・不透明 な運用(49.1%)	電力インフラの未整備 (46.6%)
カンボジア (257USD)	法制度の未整備・不 透明な運用 (65.6%)	税制・税務手続きの 煩雑さ(62.2%)	行政手続きの煩雑さ (注2)(52.9%)	現地政府の不透明な 政策運営 (注1)(49.6%)	人件費の高騰 (48.7%)
ラオス (129USD)	不安定な為替 (79.3%)	現地政府の不透明な 政策運営 (注1)(58.6%)	法制度の未整備・不 透明な運用/行政手 続きの煩雑さ(注2) (44.8%)	労働力の不足・人材 採用難(専門職 等)(37.9%)	労働力の不足・人材採 用難(ワーカー等)/従 業員の離職率の高さ/道 路インフラの未整備 (34.5%)
バングラデシュ (114USD)	法制度の未整備・不 透明な運用 (77.1%)	税制・税務手続きの 煩雑さ/行政手続きの 煩雑さ(注2) (74.7%)	現地政府の不透明な 政策運営 (69.9%)	不安定な政治・社会 情勢(66.3%)	電力インフラの未整備 (59.0%)
ミャンマー (112USD)	不安定な政治・社会 情勢(99.1%)	現地政府の不透明な 政策運営 (88.0%)	不安定な為替 (80.6%)	電力インフラの未整備 (77.8%)	法制度の未整備・不 透明な運用(67.6%)

(注1) 政策運営とは産業政策、エネルギー政策、外資規制を指す。

(注2) 行政手続きとは許認可等を指す。

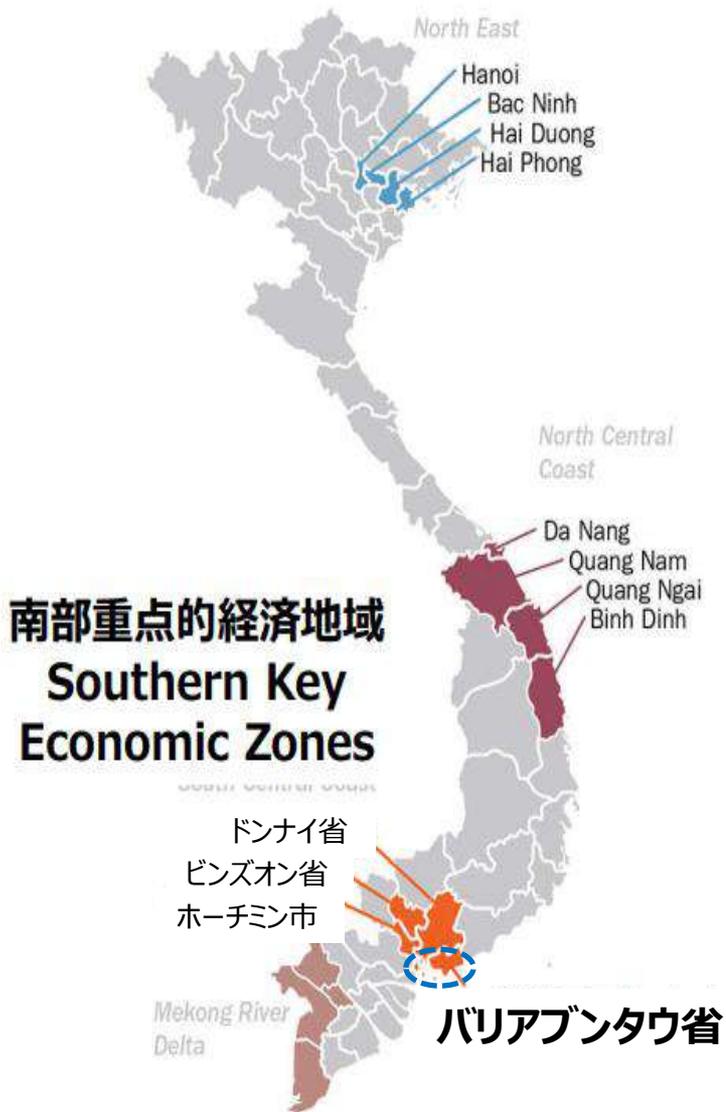
(出所) ジェトロ「2023年度アジア・オセアニア進出日系企業実態調査」



ベトナム南部、バリアブントウ省のご紹介



バリアブントウ省の概要



	ベトナム (2023年)	バリア・ブントウ省 (2023年)
総面積	331,690km ²	1,989.5 km ²
総人口	約1億30万人	約1,178,695人
GDP	4,300 億 USD	約152 億USD
一人当たりの GDP	4,284 USD	8,078 USD (原油除く) 13,988.5 USD (原油含む)

出典：Statistic Office of Ba Ria- Vung Tau

FDI誘致 ランキング	
1位	ホーチミン市
2位	ビンズオン省
3位	ハノイ市
4位	ドンナイ省
5位	バリアブントウ省

バリア・ブントウ省の4つのアドバンテージ

充実した
港湾サー
ビス



カimeツプーチーバイ港
14m~16.5mの深水港
25万DWT級コンテナ船の寄港
(世界最大のコンテナ船)

生産エネ
ルギーの
多様化



豊富な天然資源 (原油・国内埋蔵量の93%,
天然ガス17%, LPG, コンデンセート)
今後は国外からLNG輸入も。

真水の
安定供給



主として山水を源流とする豊富な水
工業団地内では100,000m³/日供給可

重化学工業の
最適地
ベトナム電炉
鉄鋼生産量の
70%

電力の
安定供給



天然ガス発電所
バリアブントウ省内で4,100MW供給
(=原子力発電所4基分に相当)

海外からのFDI件数：447件（約302億USD）

日本企業進出企業数：44社（約34億USD）（2024年現時点）

重工業

- ・岡谷鋼機(株)
- ・共英製鋼(株)
- ・日本製鉄(株)
- ・日本板硝子(株)
- ・大和工業(株)

石油化学・基礎化学

- ・AGC(株)
- ・荒川化学工業(株)
- ・エアウォーター(株)
- ・星光PMC(株)
- ・第一稀元素化学工業(株)
- ・日本酸素ホールディングス(株)
- ・東ソー(株)

港湾・物流倉庫

- ・共英製鋼(株)、(株)辰巳商會、(株)JOIN
- ・白金運輸(株)
- ・(株)商船三井

石油・天然ガス・LNG・発電所

- ・JX石油開発(株)
- ・大阪ガス(株)
- ・JERA（東京電力HD(株)×中部電力HD(株)）
- ・九州電力(株)
- ・住友商事(株)〈発電所・製粉〉
- ・双日(株)〈発電所・穀物・天然ガス・製紙〉

その他製造

- ・(株)LIXILグループ
- ・(株)ニトリホールディングス
- ・(株)トーアミ
- ・丸紅(株)〈段ボール原紙・コーヒー〉
- ・吉野石膏(株)
- ・昭和電工(株)
- ・和泉チエン(株)
- ・オー・ジー(株)〈化学品商社〉
- ・(株)昭和コーポレーション
- ・大塚ホールディングス(株)
- ・昭和産業(株)
- ・(株)広築
- ・(株)トクヤマ

ベトナム南部のバリューチェーン





フーミー3 特別工業団地



ロンソン
石油化学

カイメップ・チーバイ
国際水深港

総開発面積
1,046 HA

第2期工業団地エリア

住宅商業
ゴルフコース
エリア

360ha

第1期工業団地エリア

991B号線

LPG、コンデンサートパイプライン

Phuoc Hoa - Cai Mep 道路

LPG、コンデンサートパイプライン
天然ガスパイプライン

ブンタウ ← 国道51号線 → ホーチミン

重化学工業・素材産業の発展に魅力的な地域
タンビンフーミー株式会社

ロンソン
石油化学

カイメップ・チーバイ
国際水深港

総開発面積
1,046 HA

596ha

第2期工業団地エリア

住宅商業
ゴルフコース
エリア

第1期工業団地エリア

991B号線

LPG、コンデンセートパイプライン

Phuoc Hoa - Cai Mep 道路

LPG、コンデンセートパイプライン
天然ガスパイプライン

ブンタウ ← 国道51号線 → ホーチミン

重化学工業・素材産業の発展に魅力的な地域
タンビンフーミー株式会社

フーミー3 特別工業団地の開発状況



重化学工業・素材産業の発展に魅力的な地域
タンビンフーミー株式会社

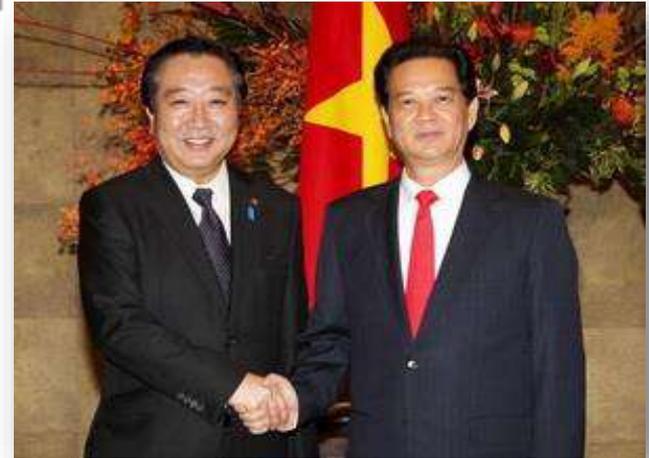


重化学工業・素材産業の発展に魅力的な地域
タンビンフーミー株式会社

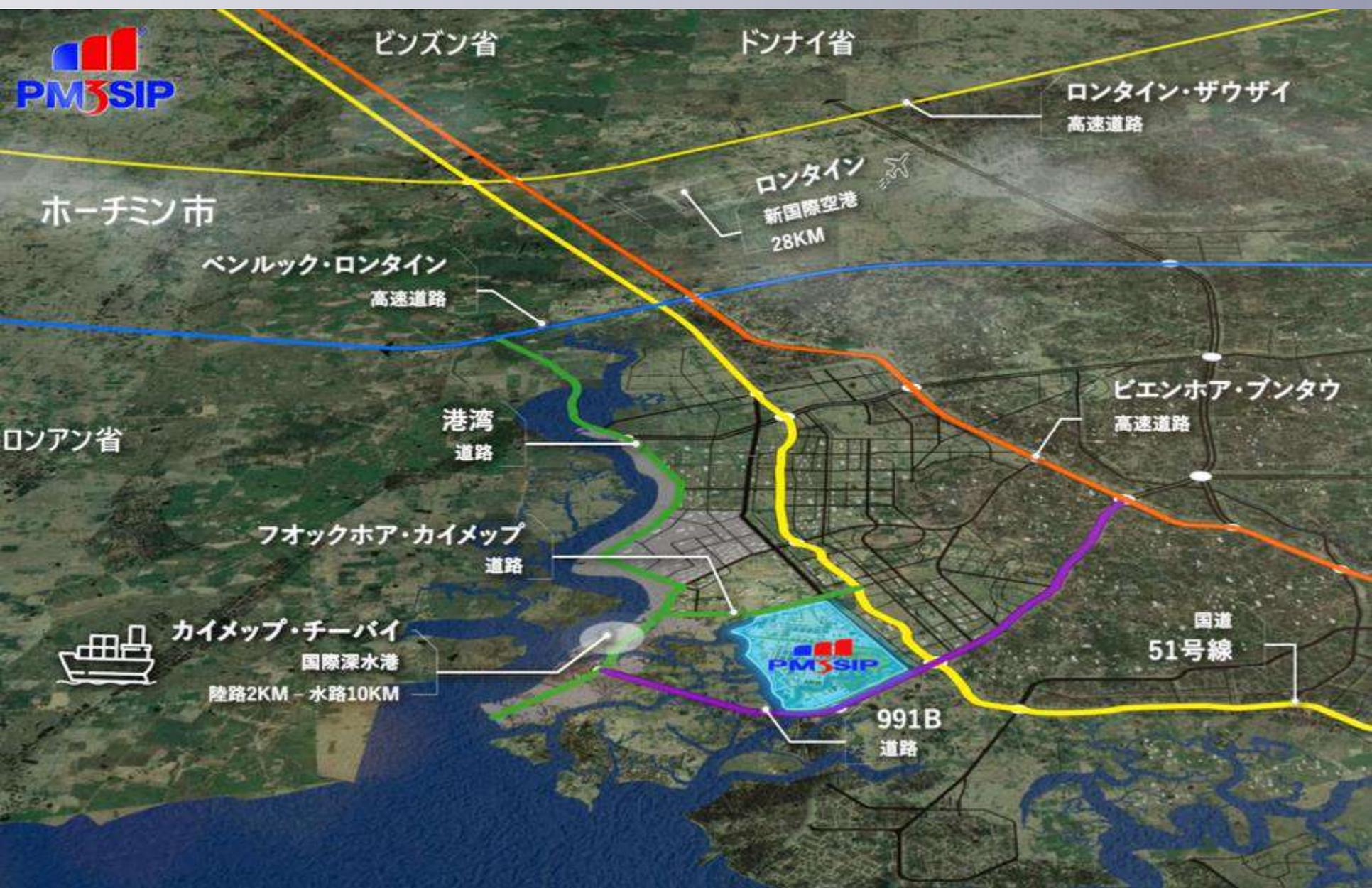
「特別工業団地」とは？

2011年10月、当時のベトナム・ズン首相、野田首相との間で、ベトナムで2か所の日系専用工業団地を建設する事が合意され、PM3工業団地が選ばれましたが、最終的に**2014年12月**、バリアブントウ省ではフーミー3工業団地を特別工業団地として認可しました。

・**特別工業団地の恩典**として、通常50年間の土地リース期間が**70年**に拡大。PM3の場合ライセンスを2007年に受けており、2077年12月21日までの**53年のリース期間**となっています。土地使用料（Land use fee）が団地操業後、**15年間免除**されます。フーミー3特別工業団地の場合、2018年から操業しており、2032年まで土地使用料が免除されます。



バリア・ブントウ省の戦略的位置



充実した 港湾サー ビス



カイメップ - チーバイ港
14m~16.5mの深水港
25万DWT級コンテナ船の寄港

生産エネ ルギーの 多様化



豊富な天然資源 (原油・国内埋蔵量の93%,
天然ガス17%, LPG, コンデンセート)
今後は国外からLNG輸入も。

真水の 安定供給



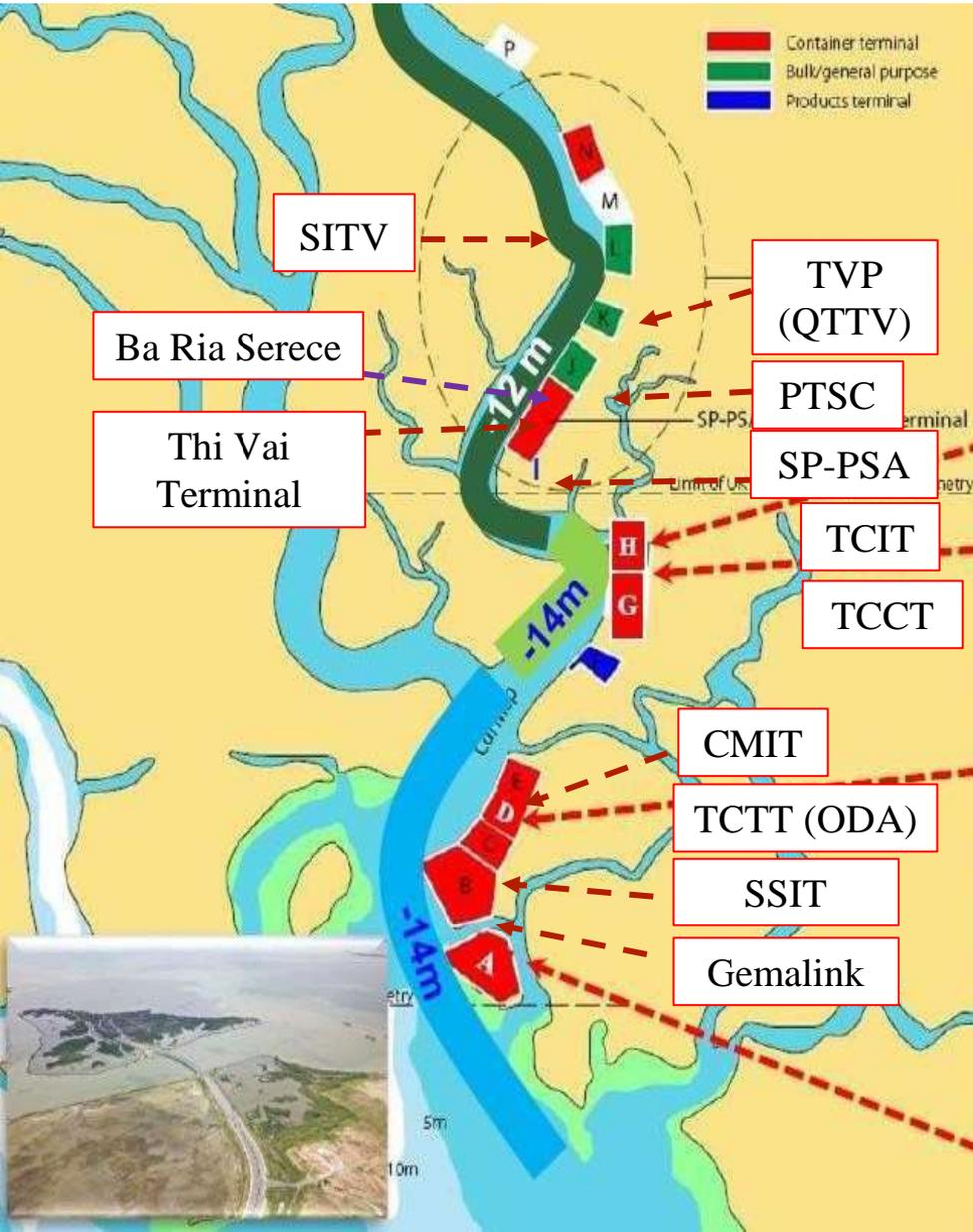
主として山水を源流とする豊富な水
工業団地内では100,000m³/日供給可

電力の 安定供給



天然ガス発電所
バリアブントウ省内で4,100MW供給
(=原子力発電所4基分に相当)

※イメージ写真



フーミー 3 特別工業団地からわずか 2 km !

◆ **ベトナム最大の国際深水港**

+ 250,000 DWT 級のコンテナ船着岸可能

◆ **平均水深 14m**

◆ **設計容量 : 830万TEUs/年**

(稼働 6 コンテナ港合計)

◆ **チーバイ港 (ばら積み・一般港)**

稼働中 : 6 港

貨物取扱量 : **2,340 万トン** (2022年)

◆ **カイメップ港 (コンテナ港)**

稼働中 : 6 港

コンテナ取扱量 : **560万TEU** (2022年)

◆ **液体港 (パナマックス型船着岸可能)**

稼働中 : 3 港





アメリカ：21便/週

中東：1便/週

ヨーロッパ：1便/週

ベトナム国内：5便/週

アジア域内（日本含む）：13便/週

**ベトナム南部で唯一
欧米からの直行便が積み替えなしで直接入港できる国際深水港**



大型トラック・貨物などの重みに耐久性のある鉄筋コンクリート道路



2キロ先の変電所から、高圧110KV送電線を工業団地内変電所に引込み22KVに変圧後
地下送電線でテナントに供給。24時間365日PM3エンジニア常駐。

総発電量（第一期・第二期）：378MVA Copyright © 2024 Thanh Binh Phu My



豊富な山水を水源とする水道公社より
1日あたり10万トンまでの供給を受ける事が可能。
水量拡張可能。



神鋼環境ソリューションの設計、施工による排水処理場はバリアブントウ省で初めて一番厳しい排水基準であるクラスAで処理。

処理能力 第1期: 9,000m³/日

拡張予定: 45,000m³/日



ガスステーションから地下パイプラインをとお客様工場まで天然ガス供給可能



製造に欠かせない酸素、窒素、水素、アルゴンガスがパイプラインで供給可能



ワンストップサービス

メンテナンスサービス
電気・上水・排水処理場の
安定稼働
24時間365日

法務・税務・労務
等の最新情報提供

ロジスティクスサポート



会社設立手続き：IPA・
IRC（投資登録証明書）・
ERC（企業登録証明書）、
環境申請、建設申請
取得済みのライセンスの変更
申請サポート

ビザ取得サポート、
採用活動サポート

サービスセンター（スポー
ツ、レストラン、賃貸オフィ
ス、会議室、外国人専門
家のための住宅地など）

テナント様の操業へのサポート

1. 操業開始 2. 操業への集中 3. 安定生産





PM3 SIPの取り組み

6 CLEAN WATER AND SANITATION



安全な水—水質保
全

エネルギー効率化



ESG-Environment
清掃活動

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

災害に強いインフラ整備



9 INDUSTRY, INNOVATION AND INFRASTRUCTURE



8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH



雇用の創出



チャリティ活動



Yagi台風 復興基金



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES



8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH



雇用の創出



チャリティ活動



Yagi台風 復興基金



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES





カイメップチーバイ国際深水港

INTERNATIONAL DEEP - WATER PORT - SYSTEM CAI MEP - THI VAI

Cai Mep - Thi Vai Port Depth -14m ~ - 16.5m
Ships with 200,000 DWT tonnage can dock
The marine network system connecting directly to

フーミー3から
車で約40分

国際水深港
まで約2km

ブンタウ市





灯台



海岸ビーチ



コン Dao 島



ウミガメの産卵地



ホーチアムストリップ (カジノ・ゴルフ場)



スキューバダイビング



ギエンオング祭り



キリスト像



Fusion Suite



ホワイトパレス：フランス領時代
(1898年から1916まで) に建設された別荘



病院(MRIやCT等の医療設備搭載)



スーパーマーケット



海浜公園



インターナショナルスクール



省道



外国人向けアパート

**外国人の居住環境をサポートする
重要な社会インフラが十分に整っています。**

スーパーマーケット

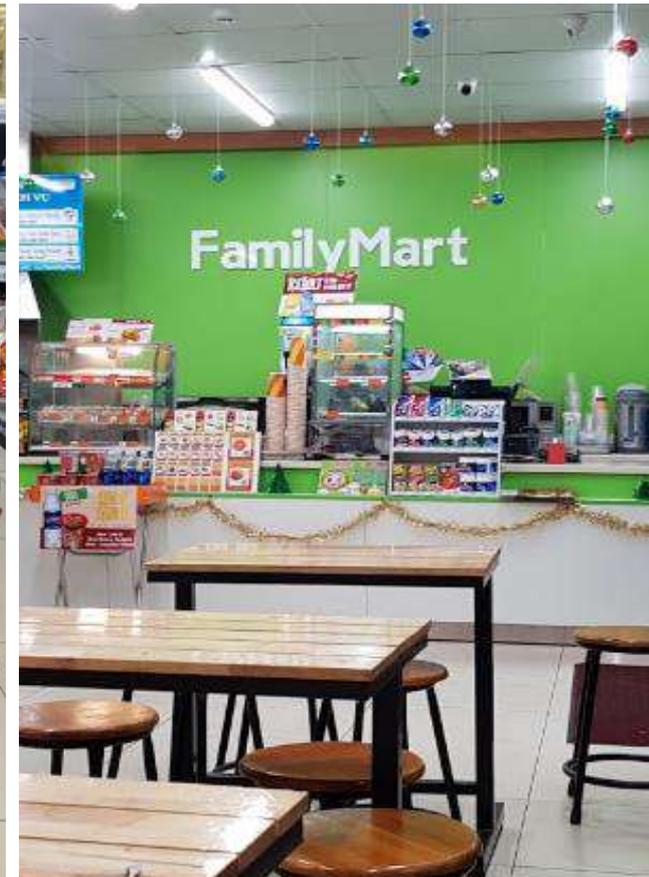


Lotte Mart Vung Tau – DAISO JAPAN / 住所 3 Tháng 2, Phường 8, Thành phố Vũng Tàu

Mega Market / 住所 quốc lộ 51B, phường 11, Bà Rịa - Vũng Tàu

Coopmart Supermarket / 住所 36 Nguyễn Thái Học, Phường 9, Thành phố Vũng Tàu, Bà Rịa - Vũng Tàu
他

コンビニストア



Family Mart / 住所 171 Nam Kỳ Khởi Nghĩa, Phường 3, Thành phố Vũng Tàu, Bà Rịa - Vũng Tàu **約8店舗**

Circle K / 住所 205, Nam Kỳ Khởi Nghĩa, Thành Phố Vũng Tàu, Tỉnh Bà Rịa-Vũng Tàu **約14店舗**

VinMart / 住所 72A 72B Võ Thị Sáu, Phường 2, Thành phố Vũng Tàu, Bà Rịa - Vũng Tàu **約15店舗**

他

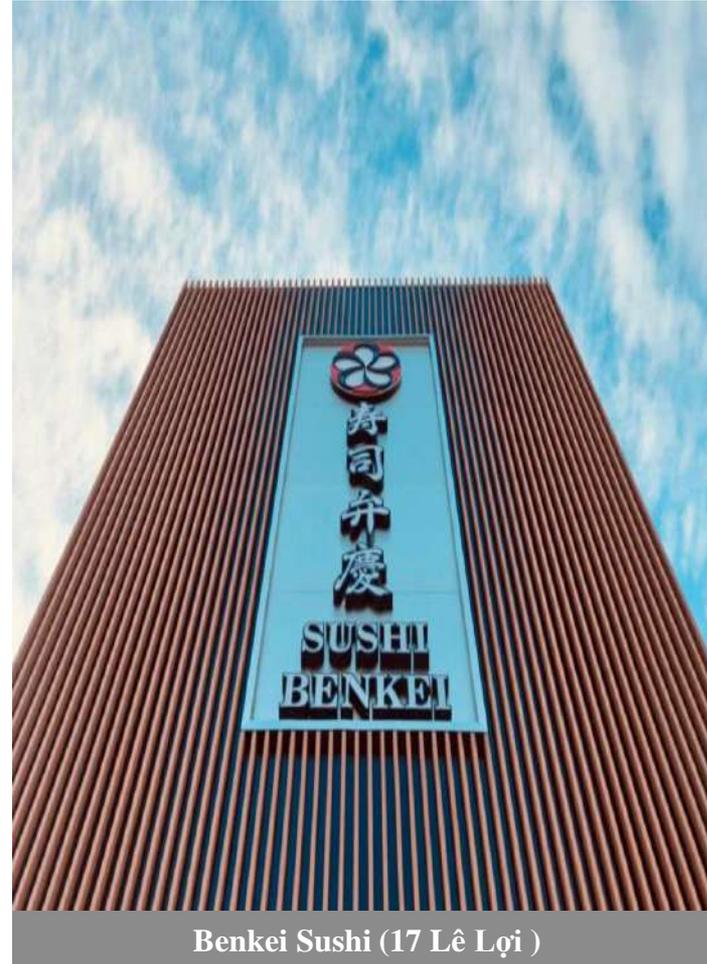
レストラン ～海鮮料理～

Ganh Hao 1 / 03 Trần Phú, Phường 5



Marina Club Vung Tau/ 03 Ha Long Ward 2, Vung Tau

レストラン ~日本食~



ベトナムでの就職

海外で働くことの醍醐味

- ・行動力
- ・海外に身を置くことで、柔軟な思考・対応が身につく
- ・顧客が日本企業以外の場合も
- ・英語が身近になる
- ・外国へ行きやすい
- ・自分が海外でどれだけ通用するかが分かる
- ・出会う日本人との関係性が濃い
- ・自分に自信がつく
- ・経済成長の勢いと刺激を感じられる

世界が広がる、人生が豊かになる



ベトナムでの就職

ベトナム就職

- ・日系企業が多数進出
- ・英語力がそれほど必要でない場合もある
- ・日本での職歴（最低3年）は円滑なビザ取得には必要になる場合がある
- ・日本人としてのビジネスマナー等を理解しておくことは必要
- ・日本人コミュニティがある
- ・日系のお店、病院等が都心には数多くある

数多くの転職サイトがベトナム就職をサポート

- ・マイナビ転職
- ・リーラコーエン
- ・アイコニック
- ・パーソルベトナム
- ・HRnabi
- ・ベトスカウト 等々





フーミー 3 特別工業団地

企業の発展に魅力的な地域



✉ Email: marketing@phumy3sip.com

☎ Contact : 齊藤 芙美

🌐 Website: <http://phumy3sip.com>

☎ 電話番号 : (+84) 098 101 1277